

司法省記錄文庫
第貳百十一號

司法省
第三五號
寄贈圖書文庫

第一四號
第一架
第四

X
B
8

有年
有年

XB300
B 1
8 a

新真蘇
蘇不蘇
蘇不蘇

蘇不蘇
蘇不蘇
蘇不蘇

民法草案

第三編 物上及ヒ對人ノ諸權利ヲ獲得スル方法

第六百一條 凡ソ物上及ヒ對人ノ諸權利ハ本編ノ兩

部ニ説明スル如ク各箇即チ單獨ノ名義ニテ若クハ

包含ノ名義ニテ之レヲ獲得スルヲ得可シ

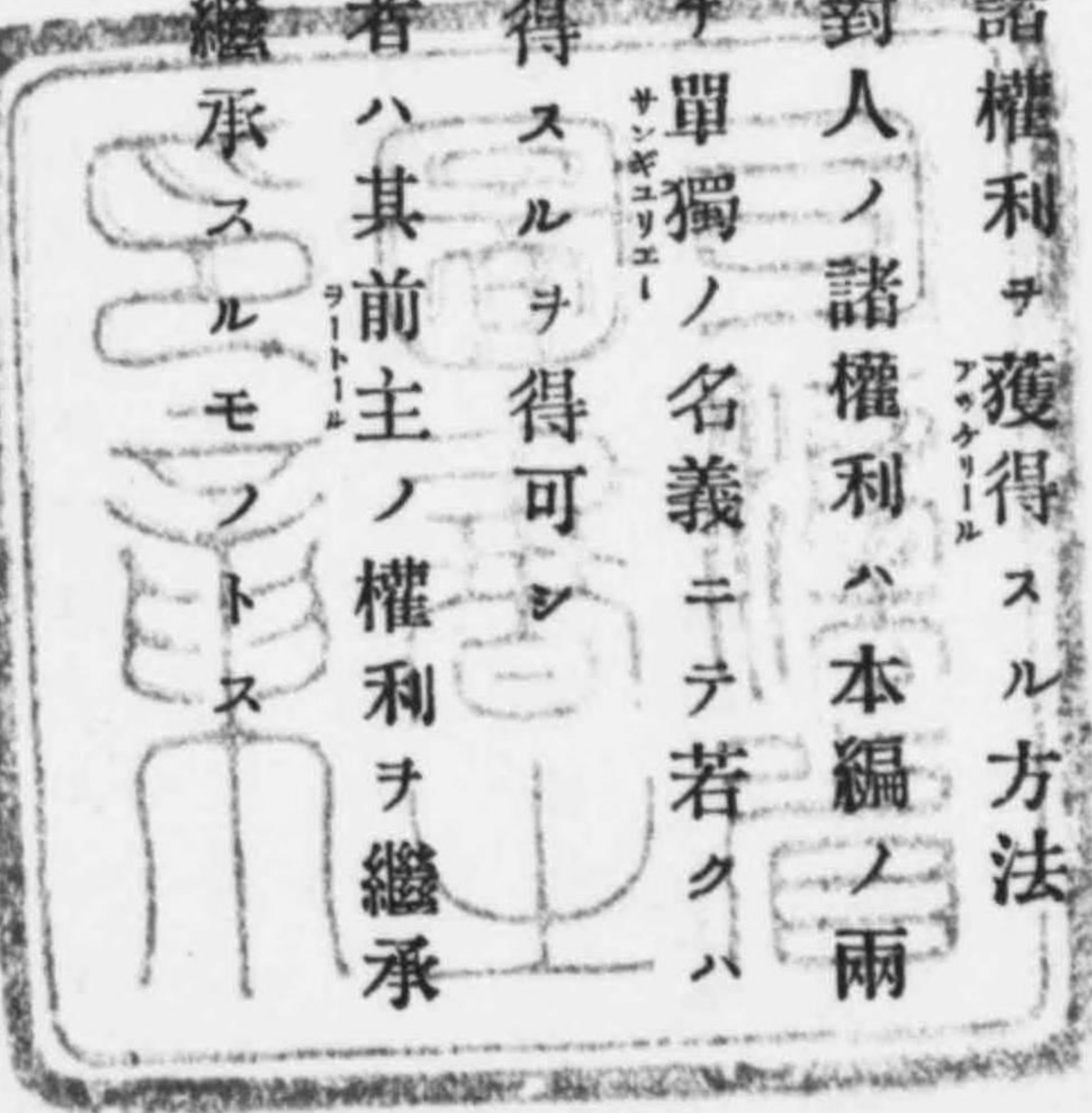
包含ノ名義ニテ獲得スル者ハ其前主ノ權利ヲ繼承

スルト同時ニ其義務モ亦繼承スルモトス

註解

第六百一條 本法典ノ計畫及ヒ其五編ニ區別セル

ハ嘗テ之ヲ述ヘタリキ(物權ノ部、緒言)



彼ノ佛蘭西法典ノ三編ノ區別ハ之ヲ摸倣スルヲ難
 カリシ蓋シ該法典カ第三編中全ク其表題外ニシテ
 且ツ彼^レ是^レ相互ニ異ナル數多ノ事項ヲ蒐集シタル
 ハ人ノ知ル所ナリ
 左レハ第三編ハ題シテ「所^〇有^〇權^〇ヲ^〇獲^〇得^〇ス^〇ル^〇種^〇々^〇ノ^〇方^〇
 法」ト云フモ其實同時ニ一切ノ對人權即チ債主權ヲ
 規定シ又併セテ該權利ノ擔保即チ抵保(保證、質入、先
 取特權、書入質)ヲ規定スルモノナリ○日本法案ニテ
 ハ對人權ハ之ヲ第二編中ニ列置セリ是レ其財產タ
 ルカ故ナリ而ノ又該權利ノ擔保ニ至テハ之ニ第四

ノ一編ヲ供セリ

又佛蘭西法典ハ義務及ヒ對人權ノ事項ニ於テ證據
 ノ事ヲ規定シ恰モ其物上權ニ就テハ同一ナラサル
 カ如クセリ○日本法案ハ之ニ最後ノ第五編ヲ供ス
 是ヲ以テ此第三編ハ限縮シテ繼カニ獲得^〇ス^〇ル^〇ノ^〇方^〇
 法ヲ定ムルニ止マルト雖^レ凡^レ其管^〇ニ所有權ニ
 係ルノミナラス亦タ併セテ物上ト對人トノ二種ノ
 權利ニ係ルヲハ故ラニ之ヲ記スルノ勞ヲ取レリ
 然リト雖^レ凡^レ或ハ信スルモノアラソ物上權ノ獲得ノ
 事柄ニ關シテハ第二編ニテ既ニ所有權ノ支分權入

額所得權、地役權、質貸權、長期質貸權、土地表面使用權ヲ獲得スルノ方法ヲ掲ケタレハ此處ニハ最早所有權ノ事ヲ見ルニ過キサルヘシト然レモ嘗テ敷衍シタル所ハ獨リ此所有權ノ支分權ニノミ固[○]有[○]ナル獲得ノ方法ニシテ其所有權ト普通ナルモノニ至テハ之ヲ開示シタルニ過キサルヲ記臆スヘシ左レハ此處ニ現出スル所ハ即チ此獲得ノ方法ニシテ其適用頗フル廣汎ナリトス夫レ斯クノ如ク第三編ハ之ヲ限縮シタレモ猶ホ其區域ノ廣キ其事項ヲ配置スルニ於テ多少ノ困難ヲ

現出セリ

蓋シ獲得ノ方法ヲ物上權ニ適用スヘキモノト對人權ニ適用スヘキモノトノ二階級ニ分離セント思考セシモ其最多數ハ二種ノ權利ニ普通ナルヲ以テ遂ニ如スルヲ能ハサリシ故ニ法律ニ於テハ末々用ヒラレサルモ論說ニ於テハ用ヒラレタル一他ノ彙類法ヲ採用セリ各箇ノ名義ニテ獲得スルノ方法及ヒ包[○]合[○]ノ名義ニテ獲得スルノ方法トニ分離スルト是レナリ○嘗テ第二編(第十七條)ニ於テ各箇、單獨即チ特[○]定[○]物[○]ト包[○]合[○]物[○]トヲ區

別スルノ機會アリテ包合物ハ財産ノアンサンブルトシ、アン、パトリモニ总体全一家産

又ハ家産ノ未分ノ部分ヲ組成スルモノナルコトヲ述

ヘタリ

本條ハ此區別ノ採用ヲ辨明スルカ爲メ直チニ其實際ノ利益ヲ指示ス

各箇ノ名義ノ承權人ト一般ノ名義ノ承權人トノ此

區別ハ既ニ第二編ニ於テ屢々之ヲ見タリ(就中第三

百五十八條ヲ見ヨ)然レ凡包合名義ノ獲得者ハ其先

人、其自己ノ權利ヲ享受セル人ノ義務ノ总体ヲ繼承

スルトノ原則ヲ敷衍スルハ殊トニ本編第二部ノ首

ニ在リ

此兩部ノ區別ヲ採用シタル後ニ至テモ亦タ尙ホ順

序ニ關シ二三ノ困難存在シタリ即チ第一部ハ之ヲ

第二部ニ比スルニ其包括スル所ノ獲得ノ方法其數

一層多ク且ツ深ク相ヒ異ナルニ因リ區別ト細別ト

ヲ用テ更ラニ之ヲ班列シ得ンコトヲ望ミタリシカ原

ト此等獲得ノ方法ノ過半タル之ヲ獨立セシムルニ

於テハ亦タ各々其必要ナル區別ヲ有スルカ故ニ斯

クスルキハ則チ遂ニ了解ヲ容易ナラシムルコト能ハ

サルノミナラス却テ之ヲ錯雜ナラシムル所ノ滅裂

ヲ來スヲ免カレサルヘキナリ○是ヲ以テ此第一部
ヲ組織スル二十有二章ヲ順次列置スルニ就テハ特
リ理論上ノ順序ニ遵ヒ敢テ他ニ再次ノ彙類法ノ外
顯ノ指示ヲ爲サ、リシ

然レモ人若シ能ク此點ニ付キ注意ヲナスナラハ即
チ諸章ノ列次法敢テ專恣ニ非ラス亦タ偶然ニ非ラ
ス都テ充分整齊シ且ツ適當ノモノナルヲ見ルヘシ
左レハ第一、初ノ數章(自第一章至第四章)ハ特ニ所有
權ノミヲ獲得シテ對人權ヲ獲得セサルノ方法ヲ掲
グ

第二、次ノ數章(自第五章至第十七章)ハ二種ノ權利ヲ
獲得スルノ方法ヲ掲グ即チ物上權ト對人權トニ普
通ノモノナリ

第三、後ノ五章(自第十八章至第二十二章)ハ右ニ反シ
テ特ニ對人權ノ獲得ニ固有ノモノナリ

又此獲得ノ諸方法ハ其目的ノ點ニ非サル一他ノ點
即チ其性質ノ點ヨリ觀察ヲ下シテ之ヲ班列スルコ
トモ得ヘシ
左レハ第一、初ノ四章ハ主トシテ占取ニ基クモノト
ス

第二、次ノ三章ハ法庭ノ判定、裁判ニ基クモノナリ是
シユニオース デシヨシ シユニシユマン
 レ全ク特殊ノ事柄ナリトス何ントナレハ裁判ナル
 モノハ概シテ權利ヲ認定スルモノナルニ此處ニハ
デクアララフ
 權利ヲ賦與シ之ヲ移轉スルモノトナレハナリ
アツトリビユチフ トランスラチフ
 第三、第八及ヒ第九ノ章ハ意欲ノ一致ニ基カサル獲
 約ノ方法ノ一聯ヲ完結スルカ爲メ此處ニ列置スル
モリ
 モノナリ蓋シ法律ハ其他ノ効力ト共ニ義務ノ本源、
 原由即チ對人權ノ本源、原由中ニ列セシカ或ル場合
 ニ於テハ物上權ヲ獲得スルノ方法タリトス贈遺
 即チ遺囑ノ贈與ニ至テハ日本ニ於テハ今日ニ至ル

マテハ多ク行ハレサリシト雖モ其人類自然ノ需用
ブツ
 ト性情トニ應スルノ著シキ必スヤ日本ノ新法制中
サンチマン
 モ之ヲ認定シ之ヲ規定スルナルヘシ
 第四、第十章ヨリ末章ニ至ルマテノ獲得ノ方法ハ總
 テ合意上即チ契約上ノモノナリトス但タ無名契約
コンバシヨシチール コントラクチュエール
 ハ前編ノ第二全部ノ目的タリシニ因リ此處ニ掲ケ
 タルハ特ニ記憶ノ爲メノミナリ終リノ十有二章ハ
 第三百二十四條ニ開示シタル區別ナル有名契約ニ
 供スルモノナリ
 第五、又或ル限度内ニ於テハ契約ノ他ノ區別ヲ斟酌

セリ其區別タル契約ノ性質ニ因リ異ナリ且ツ第三
 百十八條以下ニ掲載シタル彙類法ニ出ツルモノナ
 リ左レハ實行契約中特リ此處ニ列スヘキ消費貸借、
 使用貸借及ヒ附託ノ三契約ハ之ヲ接近セシメタリ
 (動産質ハ第四編ニ屬スヘキモノナリ又右契約ノ後
 チノ二者ニ名代契約ヲ加ヘテ以テ所謂「不完全ノ双
 務」ノ契約ヲ接近シタリ此契約ハ同時ニ無償即チ恩
 惠契約タルモノニシテ其他ノ契約ハ首ニ列置シタ
 ル贈與ヲ除クノ外有償タルモノナリ
 第二部ニ掲グル獲得ノ方法ハ其數較々少シト雖モ

第一及ヒ最終ニ位スルモノ即チ婚姻財産契約及ヒ
 法律上ノ相續ノ如キ其一二ノモノハ其重要ナルト
 シユクセシヨシ、レシヨム
 極メテ大ナリ
 其物上權ト對人權トニ併セテ適用スルコトハ此獲得
 ノ諸方法ニ「包含名義」ニテノ稱ヲ附シタルニテ最早
 ア、チートル、ニニベルセー
 充分指示セラレタリトス
 此獲得ノ諸方法ハ初ノ二個ヲ除キ都テ無償ナリトス
 尙ホ茲ニ制定スヘキ期滿得免ノ位置ノ存スルアリ
 プレスクリフシヨシ
 嘗テ物權ノ部(緒言)ニ於テ期滿得免ノ論理ニ恰好セ
 ル位置ハ第五編證據ノ部ニ在リ期滿得免ハ獲得若
 フンキジシヨシ

クハ免脱ノ法律上且ツ完全ナル推測トシテ之ニ屬
リスラシヨシ スヘシト雖凡實際一種ノ慣例アリテ全ク之レヲ破
アフソリユー 毀スルモ不可ナレハ第三編ノ末尾ニ之ヲ列置スヘ
トラチシヨシ シト述ヘ遂ニ第五百八十五條ハ此意義ニテ編纂シ
 了リタリ

然レ凡此約ヲ實行セントスルニ方リ其到底難キヲ
 覺ユ何ントナレハ期滿得免ノ免除ニ係ルモノハ本
リスラトソール 編中之ヲ列スヘキ名義アル部ナリ又所得ニ係ルモ
アツキジトソール ノハ各箇ノ財産ヲモ獲得セシメ亦タ財産ノ包含ヲ
 モ等シク獲得セシムルモノナレハ右ニ反シテ兩個

ノ名義ニテ兩部中共ニ列セサル可カラサルナリ○
 是ヲ以テ遂ニ期滿得免ニハ確然第五編ニ於テ其論
 理ニ恰好シ、學問上ニシテ且ツ單リ法律上ノ位置ヲ
 與フルテ必要ナリト認メタリ
 即チ第五編ニ於テ之ヲ以テ證據ノ事ヲ終リ且ツ併
 セテ其實ニ終始開繫スル所ノ法典ヲ終ルヘキナリ

第一部 各箇ノ名義ニテ獲得スル方法ノ事

第一章 先領チキユバシヨシ

第六百二條 先領ハ無主ノ動產物ノ所有權ヲ自己ノ

所有トスル意思ヲ以テ、最初ニ占取スルニ依リ、其物ヲ獲得スルノ方法ナリトス

第六百三條 所有者カ野獸ヂビエヲ放ケ置キ又ハ飼ヒ置ク

繞圍セル所有地内ニ於テ其允許ヲ受ケスシテ其禽

獸ヲ捕ヘタル者ハ現物ナチユール又ハ對價物ユキウツランヲ以テ之ヲ返還

スヘキモノトス

繞圍セル私有ノ池沼、湖若クハ水流中ニ於テ魚ヲ捕

ヘタル者モ亦大同シ

第六百四條 田獵シヤツス及ヒ捕魚ノ權ノ實行並ニ河海ノ漂

着物及ヒ陸上ノ遺失物ノ獲得ハ特別法ヲ以テ之ヲ

規定ス戰時ニ行フ海上ノ掠奪及ヒ其他ノ分取ヒユクニ付

テモ亦大同シ〔佛蘭西法典、第七百十五條、第七百十七

條〕

第六百五條 舊所有者ニ於テ拋棄シタルモノト唱フ

ル物件ノ先領ニ關シコンテスタシヨン爭論アル場合ニ於テハ隨意拋

棄ノ供證ハ先領ヲ効用セントスル者ノ任トス

第六百六條 單ニ偶然ノ事ヨリ他人ノ物件中ニ發見

シタル埋物ニシテ所有者ノ知レサルモノ、所有權ヂクイヴェール

ハ半ハ發見者ニ屬スヘシアンバントール

其埋物アンブライヲ埋メ又ハカシエ隱沒シアリタル物件所有者カ該

埋物ニ付テ有ス可キ權利ハ次ノ附添[○]ノ章ニ之ヲ規

アクセシオン

定ス〔第七百十六條○伊太利法典第七百十四條〕

第六百七條 埋物ノ舊所有者ハ發見後三年ノ期限内

ニ於ケルニ非サレハ前條ノ所有權附與ノ規則ニ反

シテ自己ノ權利ヲ効用セシムルヲ得ス

發見シタル埋物ノ存セシ物件ノ所有者自カラ其埋

物ノ所有者ナル場合ニ於テハ右ノ期限ヲ一年ニ減

縮スヘシ但シ其期限ハ該所有者ニ於テ埋物發見ヲ

承知シタル時ヨリ之レヲ起算ス可キモノトス

然レモ埋物ノ占有者惡意ナルキハ通常民事ノ期滿

プレスクリプション、レベール

所得ヲ適用スヘシ

註解

第六百二條第六百三條及ヒ第六百四條 抑モ社會ノ

本源ニ於テ所有權ノ始マレルヤ假令ヒ不動産ニ關

スルモノト雖モ之カ先領[○]ヲ爲スニ因レルヲハ往々

吾人ノ保持セル所ナリ

故ニ各國ノ土地人口ノ蕃殖僅少ナルニ比シテ廣大

ニ過キタリシ時ニ當リ其土地ヲ充分耕作スルカ爲

メ各自ニ於テ或ハ耕作シ或ハ益用シ得ヘカリシ全

部ノ土地ハ自由ニ之レカ先領ヲ行ヒ而シテ多少其

土地ニ繞圍テ設ケ及ヒ之レヲ改良セシ時ニ至リ始
 メテ其先領者ハ其土地ヲ保有スル正當ノ名義ヲ有
 スルモノナリ蓋シ此者ハ他ノ土地ヲ所有スルニ就
 キ同一ノ權能ヲ有スル者ヨリ撰擇權ニ依テ土地ノ
 所有者タル可キモノトス而シテ斯ナル論說ヲ認許
 スルハ自然ノコナリ
 然レトモ斯ク土地ノ先領ヲ爲シタルノ事實ハ往古
 多少其廣大ナル適用ヲ爲セシコトヲ認許スル以上ハ
 夫ノ民族相互間ニ戰端ヲ開キ漸次人民相互ノ間ニ
 及ホスノ際ニ於テ戰爭ハ此等ノ所有ノ權利ヲ過半

破滅セルモノナルコトモ亦一層之レヲ信ス可キモノ
 トス即チ其打勝タル土地ハ勝利ノ結果トナリ其勝
 利ヲ得タル者ノ主將ハ其土地ノ大部ト其最モ富饒
 ナル部分ヲ已レニ保有シ以テ其他ヲ兵卒ニ分配セ
 リ○斯ノ如キ獲得ノ原由即チ戰爭モ亦之レヲ「先領」
 ト稱ス然レトモ斯ナル原由ヲ前ノ原由ニ比スル片
 ハ更ニ適正ナルモノニ非サルモ此等ノ事ハ措テ問
 ハス此第二ノ原由ハ第一ノ原由ト同一ノ名稱ヲ有
 スルコト能ハス何トナレハ是レ「無主物」ノ獲得ニ適セ
 サルモノナレハナリ

社會ノ開明ニ趣キ大ニ人口ノ蕃殖スルニ至テハ土地ニ其主者無ク乃チ最初ノ先領者ノ之レヲ獲得スルカ如キハ毫モ之レカ想像ヲ爲シ得可カラサルモノナリ○當時過半ノ制法ニ於テハ特別ノ所有者無キ不動産ノ所有權ハ之レヲ國ニ屬ス可シトノ條例ヲ設ケタリ(佛蘭西民法第五百三十九條及ヒ第七百十七條日本草案第二十六條ヲ比較セヨ)○人ノ所有權ヲ有セサル所ノ水若クハ土砂ノ侵入ニ因リ高山ノ顯出シ爲メニ甚タ土地ノ廣袤ヲ狹メ又ハ其土地耕作シ得可カラサルニ至ルコアル可シ然ルハ最

初ノ先領者ハ一ノ權利ヲモ獲得スルヲ得ス蓋シ其權利ヲ獲ルカ爲メニハ國ノ讓與ヲ受ケサルヘカラスアルモノナレハナリ○又所有者自己ノ所有地ノ不毛トナリテ税額ヲ納ムル丈ケノ益ヲ生セサルモノトシテ之レヲ放棄シタルハニ於テモ亦然リ假令ヒ先領權ハ建築シタルト否トヲ問ハス總テノ不動産上ニ之ヲ適用スルヲ得スト雖モ充分廣ク之レヲ動產物上ニ執行スルヲ得可シ
 斯ク先領權ヲ動產物上ニ執行スルカ爲メニハ左ノ三箇ノ條件ヲ必要トス第一 動產物ヲ獲得セント

欲スル者ハ之レヲ所有スルノ意ヲ以テ有効ニ其實
アンタシヨシヨシ
 体ノ占有ヲ爲シタル事第二 其物件ハ現ニ「無主物」
セシヨシ、マテリエール
 ナル事第三 特別法ニテ其物件ノ獲得ヲ禁止若ク
 ハ制限セサル事

第六百二條ノ法文ハ此等ノ條件中第一第二ノ條件
 ナ明瞭ニ指定シ第六百三條ハ一箇ノ特別場合ニ於
 テハ特ニ第二ノ條件ヲ適用シタリ第三ノ條件ハ第
 六百四條ヨリ顯出スルモノナリ
 法律ノ欲スル所ノ占有ハ民法上ノ占有ニ外ナキナ
 リ而シテ其之レヲ設定スルニ箇ノ原素ハ(羅甸語ニ

テ [carpus er animus] 即チ身体ト精神トノ義ト云フ) 既ニ説
 明セルモノトス(第九十三條及ヒ同條註解、物權ノ
 部第二百五十一號乃至第二百五十四號及ヒ第二
 七十八號乃至第二百八十號ヲ見ヨ) 〇他又茲ニハ他
 人ノ物件ノ占有ニ關セサルヲ以テ惡意ニ出ルノ問
 題起ルヲナキヲ注目ス可シ尙ホ又茲ニハ期滿効ニ
 因テ占有スルヲナキカ故ニ占有ノ公告モ尙ホ其繼
 續時間ヲモ希望セサルモノトス
 又其物件ハ「無主物」(羅甸語ニテ之ヲ [res nullius] ト云フ) ナ
 ル事若クハ決シテ所有セラレサリシ事若クハ其物

ノ屬セシ本主之レヲ拋棄シタル事ヲ要ス
 主タル無主物トハ土地、空氣又ハ水中ニ自由ニ生活
 スル動物ヲ云フ而シテ此等ノ動物ハ事實ニ於テモ
 亦天性ニ於テモ野生タルコト自由ニ生活スルコト
 ノ二箇ノ性質ヲ帶フルノ條件ヲ付スルニアラサレ
 ハ田獵若クハ漁獵ニ因リ占有ヲ以テ之レカ獲得ヲ
 爲ステ得ス(附言)○故ニ固ト野生ノ天性アル禽獸ニ
 シテ既ニ人ニ馴レ且ツ自由ニ生活シタル彼ノ鳩ノ
 如キ鳩舎中ニ附置セラル、モ近傍ニ往來スルノ慣
 習アル所ノ禽獸ニ就テハ假令ヒ善意ヲ以テ之ヲ領

奪シタルモ其領奪者ハ占有ノ權利ヲ有セサルモノ
 トス蓋シ此等ノ禽獸ニ至テハ近傍ノ人ハ有効ニ之
 ヲ留置スルヲ得ス又夫ノ馴シ置キタル孔雀、鹿、デ
 ム(小鹿ノ如キ)猪ノ如キモノニシテ隣地ノ森林中タリ
 トモ自由ニ往來(羅甸語ニテ *libert redire*ト云フ)セシメタ
 ルモノモ亦同シ何トナレハ斯ナル禽獸ハ無主物ニ
 アラサルヲ以テナリ○之レニ反シテ野生ノ性質ア
 ル禽獸ナルモ之レテ鋼中ニ閉鎖シタル片ニ假令其
 鋼中ヨリ逸散シタルモ之レカ爲メ其持主ニ屬スル
 コトヲ止メ捕獲者之レカ所有者タルコトヲ得ス

附言 羅句ニ於テハ猛獸ノ田獵ヲ [venatio] ト云ヒ馬

類ノ獵ヲ [Lauconpatio] 捕魚ヲ [Piscatio] ト云フ

前ニ掲ケタル二箇ノ條件ヲ合集シタル獸類ニ付テハ捕獲者自己固有ノ地ニ於テ捕獲スルト他人ノ地内ニ於テ捕獲スルトヲ區別スルコトナシ此終リノ場合即チ他人ノ土地ニテ捕獲シタル牝ハ其土地ノ所有者ノ承諾ノ有無ト其辨獲ヲ顧ミサルトヲ區別スルニ及ハス○固ヨリ此終リノ二箇ノ場合ニ於テ捕獲者ノ過失アルハ明カナリ故ニ若シ捕獲者耕作又ハ其他ノ事業ニ損害ヲ加ヘタル牝ハ則チ其責任ア

ル者トス然レトモ捕獲者其捕獲シタル野禽獸ノ所有者タラサルコトナシ何トナレハ斯々ル野禽獸ハ常ニ「無主物」シテ之レカ爲メ何人ノ所有權ヲモ剝奪セサレハナリ

斯ノ如キ決定ハ既ニ羅馬法律ニ於テ認許セラル、モノニシテ又現今制法中之レヲ認許セリ○然レトモ我草案中ニハ明瞭ニ之ヲ指示スルノ要ナシト思惟セリ何トナレハ法律中ニ刑罰ヲ免カレ得サル所ノ所爲ニ付キ無罪ノ一種類ヲ布告シ置クハ或ル危険ヲ生シ得ヘケレハナリ○然レトモ第六百三條ニ

例外ノ場合ノ爲メニハ反對ノ及ヒ禁止シタル一個ノ條例ヲ加ヘタルヲ以テ人此規則ノ存在ヲ充分ニ認知セリ

斯々ル例外ハ容易ニ之レヲ證明シ得可シ即チ森林園圍若クハ其他繞圍シタル土地ノ所有者其所有地

内ニ禽獸ヲ放チ又ハ未得^{シヒエ}ノ野禽獸ヲ満足セシムル

カ爲メ栖植物若クハ食物ヲ以テスルカ如ク特別ノ

注意ヲ以テ右ノ禽獸ヲ其所有地内ニ飼ヒ置キ以テ

最モ有益ナル狩獵ヲ企テタル^{シヒエ}ル^{ナチユレル}如キハ既ニ其所

有者ハ殆ント此等ノ禽獸ノ所有主ノ所爲ヲ爲シタ

ルモノニシテ彼ノ自己ニ屬スル所ノ繞圍シタル池沼若クハ湖中ニ魚類ヲ貯ヘ而シテ或ル方法ヲ以テ之レヲ飼フ者ト敢テ異ナルナシ

法文ハ田獵及ヒ捕魚ヲ同條ニ合記シ而シテ自己ニ屬シテ且ツ繞圍シタル湖及ヒ池沼ニ附記スルニ等シク自己ニ屬シタル水流ニシテ繞圍シタル所有地ヲ經流スル水流ヲ以テセリ

此等ノ場合ニ於テハ法律上外人タル捕獲者ハ決シテ所有者トナルヲ能ハストマテハ論究セス蓋シ若シ其捕獲者ヲシテ決シテ其所有者タルヲ能ハサル

モノトセハ是レ其土地又ハ水流ノ所有者未タ禽獸
 魚類ヲ獲得セサル前ニ既ニ其物ハ該所有者ニ屬ス
 ルモノナリト云フニ外ナケレハナリ然レトモ法律
 ハ外人タル捕獲者ニ命スルニ現物又ハ其對價物ヲ
 以テ之レヲ返還ス可キヲ以テセリ○故ニ假令ヒ
 其捕獲者ハ獲物ノ所有者ト爲ルモ自己ノ加ヘタル
 損害ニ付テハ現物ニテ返還シ以テ之レヲ償ハサル
 ヘカラスト云フヲ得可シ

海、河若クハ繞圍セサル私領地ノ水流中ニ於テ捕
 タル魚類ハ其捕獲者ニ屬ス可シ第六百三條ニ豫定

シタル場合外ニテ獲タル禽獸ニ付テモ亦之レニ同
 シ

海、河中ヨリ捕獲シ先領ヲ以テ之レヲ獲得シ得ヘキ
 無主物ハ啻ニ魚類ノミニ係ルニ非ス○尙ホ之レニ
 殻介蟲モ亦海草ヲモ附加スルヲ要ス海草ハ我國ニ
 於テハ許多ノ種類アルモノニシテ農業上ニ用ユル
 ト工業上ニ使用スルトヲ問ハス概シテ各人ノ食物
 トナルモノナリ○又海岸ノ使用ヲ妨碍ス可キ探掘
 ヲ爲サル以上ハ海岸ノ砂石ヲ獲得スルヲ得又
 有効ニ珊瑚ヲ捕フルヲ得ルナリ

先領ニ因リ獲得スルカ爲メノ第三ノ條件ハ即チ特別法ニテ獲得スルコトヲ禁止セサルニ在リ○然ルニ國ノ過半及ヒ日本ニ於テモ或ハ時期或ハ場所或ハ方法ヲ以テ田獵捕魚ノ權ノ實行ヲ制限シ而シテ之レヲ規定スルノ特別法ヲ設ケタリ○蓋シ斯ノ如キ處置ヲ爲シタルハ禽獸及ヒ魚貝ノ保存ヲ計リ即チ公益ニ基因スルモノトス

他人ノ土地ニ於テ其所有者ノ允許ヲ受ケヌシテ捕ヘタル禽獸ニ就テハ既ニ前ニ述ヘタルニ依リ茲ニハ禁止シタル時期、場所方法ニ因リ禽獸若クハ魚貝

捕ヘタル獵者漁者ハ其獲物ノ所有者ニ非ストナ云フヲ得サレトモ概シテ特別法ニテ其禽獸魚貝及ヒ禁止ノ器具等ノ沒収ヲ命スルモノナレハ乃チ其獲得シタル所有權ハ背法又ハ有罪ノ爲メニ直チニ之レヲ失フニ至ル可シ

又第六百四條ハ漂着物ニ關スル特別法ノ條例ヲ貯存セリ

〔漂着物〕ト稱スルハ即チ紛失物ニシテ其所有者ノ何人ナルヤヲ知ラス且ツ再ヒ之レヲ發見シ得サルカ如キ物ヲ云フ(附言)○物件ヲ發見シタル場所ノ如何

ニ據リ海河ノ漂着物及ヒ陸上ノ遺失物アリトス
 附言 概シテ「漂着物」ナル語ハ羅甸ノ「*expavescere*」即チ「セ
 フライエー」(驚クノ義)ヨリ來ルモノトス蓋シ最初
 ニ驚逸シタル、迷フタル、紛失シタル獸類ヲ示スカ
 爲メニ此語ヲ採用セシテ以テナリ
 海上漂着物ハ概シテ沈没破壊シタル船舶若クハ船
 舶ヲ浮漂シ易カラシメンカ爲メニ投シタル物件ニ
 原由スルモノトス○斯ナル船舶ノ破壊物等海岸ニ
 上リタルハ往々難船ノ所ヨリ大ニ遠サカル場所ニ
 シテ且ツ餘程時日ヲ經タル後タルヘシ是ヲ以テ其

所有者ヲ發見スルヲ能ハサルニ至ルヲアリ○假令
 ヒ此等ノ物件ハ無主物ニ非スト雖モ其結果ハ殆ン
 ト同一ナリ○然レトモ特別法ヲ以テ此物件發見ノ
 コヲ規定スルテ良シトス○概シテ此等ノ物件ハ公
 賣ニ附セラル、ヲ要シ而シテ其發見者ハ其代價ノ
 一部ノミヲ獲得シ他ノ部分ハ之レヲ航海者ノ寡婦
 孤者ノ扶助資金ニ充ツルモノトス
 河川ノ漂着物ハ概シテ動產物ヲ引致スル洪水及ヒ
 溢流ニ原由ス而シテ其動產物ハ固ト河岸若クハ其
 近傍ニ貯置セラル、モノニシテ水流ノ爲メニ浮漂
デボルトマン

シ得可キモノトナリタル際其所有者之レヲ取戻シ得スシテ遂ニ遠方ニ漂流シタルモノトス陸上ノ遺失物トハ道路、公ケノ場所及ヒ其他法律ヲ豫知シ得可キ場合ニ於テ紛失シタル物件ヲ云フ此等三箇ノ場合ニ於テハ法律上發見者ニ對シ其發見シタル物ノ全部ヲ附與セサルコトニ就キ恐愕スルコトアルヘカラス何トナレハ彼ノ田獵、捕魚及ヒ其他眞實何人ニモ屬セサル物件ニ關スル場合トハ大ニ差別アルヲ以テナリ茲ニ掲クル所ニ於テハ假令知了セラレサル者ナリト雖モ眞實ノ所有者アルコト明

カナリ斯ク所有者アルノ故ヲ以テ發見者ニハ全部ノ利益ヲ與ヘサルモノトフ、又法律ハ遺失シタル者ニ其物件ヲ返還スルニ由ナキヲ以テ少ナクモ其代價ノ一部ハ之レヲ扶助ノ爲メ若クハ有益ノ使用ニ充用セリ

附言 我刑法(第三百八十五條)ハ地方ノ官署ニ無届ニテ難船ノ爲メニ漂着シタル物件若クハ紛失シタル物件ヲ留置シタルノ所爲ハ即チ犯罪トシテ之レヲ罰シタリ

終リニ臨ンテ茲ニ法律ハ戰時ニ於テ行フタル海上

ノ掠奪及ヒ分取ノ事ヲ記載シタリ
 往古戦争ハ全ク各國交際法及ヒ自然法ノ停止ニ外
 ナラサリキ何トナレハ總テ擒者ハ殺害セラレ、カ
 若クハ奴隸トナリタレハナリ是ヲ以テ勝者ハ負者
 ノ財産ヲ所有スルノ権利アルモノト思惟シ兵卒ハ
 軍事ノ本分ニ妨碍ヲ爲サ、ル以上ハ各々其保存シ
 得可キ動産物ヲ奪領スルノ許シテ得タルモノトス
 ○斯ノ如キ慣習アリシヨリ先領ハ更ニ一箇ノ適用
 ヲ受クルニ至レリ是適用トハ即チ敵ニ屬スル物件
 ハ無主物トシテ之レヲ見做シタルコト是レナリ斯ク

思惟スルコトハ虚無且ツ排斥ス可キ事柄ニシテ之レ
 ヲ破毀スルカ爲メニハ永年困苦セシモノナリ
 今日ノ精神ハ往古ノ思考ヨリ一層善良ナルモノニ
 シテ戦争ト雖モ亦人法ヲ遵守シ且ツ或ル場合ニ於
 テハ負者ヲ保護スルノ規則ヲ有シタリ○敵ノ爲メ
 囚レタル者ハ平和ノ後チ双方ヨリ之レヲ返還ス○
 又財産ニ關シテハ嘗ニ兵卒ハ敵ニ屬スル物件ヲ各
 ヲ所有スルコトヲ得サルノミナラス公領及ヒ私領地
 ハ概シテ勝利ヲ得タル邦國之レヲ尊重シタリ但シ
 土地ノ附添及ヒ負者ニ擔當セシメタル戦争ノ賠償

ニ付テハ此限ニ在ラス
 然ルニ輓近ニ至リテモ軍律ニテハ尙ホ敵ノ軍艦、商
 船、兵器、彈藥、糧食、其他悉皆ノ貯藏品ヲ直チニ掠略ス
 ルトテ許容セリ而シテ此掠略ノ目的タルヤ掠略者
 ヲシテ利得セシムルニ非ラスシテ敵軍ヲシテ疲斃
 セシムルニ在ルナリ
 然レモ是等獲得ノ場合ヲ爰ニ記載スルハ往時ノ理
 論ニ限ルモノニシテ即チ前己ニ之レカ注意ヲ加ヘ
 シ如ク是等ノ場合ハ絶テ所謂眞ノ先領ノ條件ヲ具
 フルモノニ非ラサルナリ何トナレハ已上ノ物件ヲ

略取スル時ニ於テ其物件ハ無主ナラサレハナリ如
 斯論シ來ルモハ恐ラクハ之ヲ駁シテ是等ノ物件ヲ
 獲得スルハ掠略者自ラ之ヲ爲スニ非ラスシテ其政
 府即チ其掠略者ノ屬スル所ノ軍隊之ヲ爲スニアラ
 スヤト云フ者アラント雖モ是實ニ據ル所ナキノ駁
 論ト云フ可キナリ何トナレハ占有ヲ得ルニハ他人
 ノ干涉ヲ以テスルヲ得可ク而シテ陸海軍ノ兵士若
 クハ士官ハ即チ其軍隊ノ代理者ノ如キモノニシテ
 國家ノ公益ヲ監守シ且ツ之ヲ保護スル者ノ如ク見
 做サ、ルヲ以テナリ

海軍掠奪ノトニ關シテハ歐洲邦國ノ過半ニ於テハ
 掠略者ニ其掠奪船ノ價額ノ一部ヲ歸スル所ノ特定
 ノ制法アリト雖凡是ハ唯政府ヨリ槍掠船ヲシテ敵
 ノ商船ニ對シ(槍掠ヲ爲ス)ヲ允許セシ時ニ限ルモノ
 ニシテ即チ此場合ニ於テ槍掠船ノ所得トナルノ部
 分ハ先領ニ依リテ之ニ屬スルニアラスシテ寧ロ法
 律或ハ又政府ト爲シタル合意ニ依リテ之ニ屬スル
 モノト云フ可キナリ

附言 佛蘭西ハ一千八百五十六年「クリメエ」ノ役ニ
 次キタル「巴里條約」ニ於テ人民タル者ノ佛蘭西ノ

爲メ(槍掠ヲ爲ス)ヲ允可セス即チ獨リ政府ノ船舶
 ノミ之ヲ爲ス可シトノ旨ヲ公布セリ蓋シ此事タ
 ル至其ノ一例ニシテ他邦國ニ於テモ此例ニ從フ
 一ハ誠ニ望ム可キノ事タリ

第六百五條 (無主物)中ニハ其所有者ノ棄擲[○]セシ所ノ
 物件アル可ク即チ是等ノ物件ハ最初ノ先領者ニ依
 リテ獲得セラル可キモノトス
 前己ニ說キシカ如ク不動産ハ此場合ヨリ除カサル
 可ラス何トナレハ不動産ニ所有者ナキノ場合ニ於
 テハ縱令ヒ政府ハ之ニ何等ノ意想ヲモ存セス且ツ

ハ絶テ之ヲ知ラサル時ト雖モ是等ノ不動産ハ法律
 上政府ニ獲得セラル可キモノナレハナリ
 縦令ヒ此制限ヲ以テスルモ尙ホ此先領ノ場合ニハ
 二大階級アリテ存スルモノトス○故ニ居宅地ノ狹
 隘ナル大市府ニ於テ市民ハ公道又ハ之レカ爲メ設
 ケタル場所ニ使用外ノモノニシテ且ツハ賣買ヲ得
 可ラサル動産物ヲ取捨ルト雖モ貧民ハ尙ホ好ンテ
 是等ノ棄捨物ヲ使用スルコトアリ且ツ又是等ノ棄捨
 物ヨリシテ一個特別ノ工業ヲ生スルニ至ルコトアル
 可シ又田舎ニ於テモ常ニ瘠地、泥土、雜草、庭園ノ塵芥

等ヲ所有權外ニ放置シ之ヲ利用シ得ル者ヲシテ自
 由ニ之ヲ處分セシムルコトアリ且ツ工業ニテモ又常
 ニ原物ノ不用ナル殘餘ヲ拋擲シ貧者ヲシテ之ヲ拾
 集シ之ヲ利用スルノ便ヲ得セシムルコトアリ
 然レモ召使人又ハ雇人ノ不注意或ハ怠慢ニ依リテ
 所有者ノ毫モ捨ツルニ意ナキノ物品ヲモ不用ノ殘
 物ト共ニ拋擲スルコトアル可ク又所有者ハ取入ル可
 キカ若クハ廻送ス可キ有用ナル多量ノ物件ヲ公道
 ニ放置スルコトアル可シ○蓋シ是等ノ場合ニ於テハ
 之ヲ棄擲スルノ意ナキカ故ニ之レカ棄擲ナキヤ必

セリ故ニ是等ノ物件ハ正意ノ有無ニ拘ラス先領ニ
 テ獲得シ得可キモノニ非ラサルナリ
 己上ノ場合ニ於テ證據事項ニ關シタル一個ノ論題
 ヲ生ス可ク而シテ此論題ハ草案ニテ決シ得可シト
 思了スル所ノモノナリ即チ法律上ノ推測ニ從ヘハ
 何人タリトモ其己レニ屬スル所ノ物ヲ拋棄セント
 欲セシモノト想像ス可ラス但シ此場合ニ於テ縱令
 ヒ其人ニシテ一時其物ヲ自ラ監守スルコトヲ止メタ
 リトテ別段妨ケアルコトナシト○是ニ由リテ之ヲ見
 レバ今爰ニ所有者ハ或ル物件ヲ拋棄セスト主張シ

占有者ハ先領ニ依リテ之ヲ獲得シタリト主張シ此
 事ニ關シテ相互ノ間ニ抗爭アルコト於テハ隨意ノ棄
 擲アリタリトノ證據ハ占有者ヨリ提出セサル可ラ
 サルナリ

第六百六條

爰ニハ主トシテ法律上埋物ト稱スル所

ノモノニ付キ精確ナル注意ヲ爲サ、ル可ラス蓋シ
 草案ニテハ佛蘭西法典(第七百十六條)ニテ爲セシカ
 如ク之レカ義解ヲ附セスト雖モ其條例中ニ之レカ
 性質ヲ指定シタリ○然ルニ佛蘭西法典ニテ之ニ附
 シタル義解ハ未ダ批難シ得可ラサルモノニアラサ

ル可シ即チ其義解ニ曰ク(埋物トハ何人モ其所有權ヲ證明シ得サル純粹ナル偶然ノ効力ニ依リテ發見セラレタル所ノ埋沒即チ隱沒シタル所ノ悉皆ノ物件ナリ)云々○故ニ爰ニハ三個ノ性質アリテ存シ其最後ノモノニ付テハ佛蘭西法典ニテハ爲サ、リシ所ノ區別ヲ爲サ、ル可ラス即チ發見人ニ其一部ヲ歸ス可キ埋物ニ關シタル時ハ其發見ハ偶然ニ出テサル可ラスト雖モ若シ土地若クハ主タル物件ノ所有者カ何物ヲカ發見セントノ目的ニテ特別ニ爲レタル搜索ニテ埋物ヲ發見シタル時ハ所有者ハ其埋

物ノ全部ヲ得可シ又所有者ハ縱令ヒ豫メ期圖シタルニ非サルモ職工ヲ使用シテ搜索ヲ爲サシメ埋物ヲ發見シタル時ハ其埋物ハ正シク所有者ノモノナリトノ確實ナル證據アルニ於テハ前ト同シク其全部ヲ得可シ○況ンヤ第三ノ人アリ埋物ヲ發見セントノ目的ニテ搜索ヲ爲シ而シテ實際埋物ヲ發見シタルノ場合ヲ假想スルニ於テヲヤ此場合ニ於テハ縱令ヒ此發見物ハ偶然ノ純粹ナル効力ニ依リテ發見セラレタルニ非サルモ固ヨリ之レヲ以テ決シテ埋物ニ非ラスト云フヲ得サル可シ然レモ此發見物

ノ全部ハ所有者之ヲ獲得ス可シ○是ニ由リテ之ヲ見レハ偶然ノ條件ヲ要スルハ外人タル發見人ノ爲メニセシモノニアラサルヤ必セリ是レ本條ニ於テ注意以テ之ヲ説明センカ爲メ以太利亞法典(第七百十四條)ニテ採用シタル羅馬ノ理論ヲ再說シタル所以ナリ

然レモ主タル物件ノ所有者ニモ發見人ニモ他ノ二個ノ條件ヲ求メサル可ラス第一、發見物ハ(埋沒シタルカ又ハ隱沒シタル)物ナルヲ要ス第二、實ノ所有者ハ之ヲ知ラサルヲ要ス○然ラハ則チ若シ發見物カ

土地面又ハ水面ニ在リシカ家内又ハ動產物中ニ隱藏シタルモ別ニ勞ヒスシテ眼ニ觸ルヘキモノナル時ハ是レ則チ遺失物ニシテ埋沒物ニ非サルナリ○且ツ若シ其發見物カ鑛坑又ハ石坑ナル時ハ是又決シテ埋沒物ニ非ラスシテ土地ノ一部分ナリ故ニ發見人ハ是等ノ物ニ付テハ何等ノ權利ヲモ有スルコトナシ

第二ノ條件ニ至リテハ縱令ヒ其條件ヲ履行セヌシテ不當ニモ之ヲ履行シタルモノト思テ了スルヲ得可ク即チ實ノ所有者カ之レニ所有權ヲ有スルコトヲ知

ラシムルヲ遅延セシノ場合はナリトス尤モ此場合
 ニ於テモ所有者ノ之ヲ知ラシムルハ次條ニテ定メ
 タル期滿得免ノ期限前ニアラサル可ラス
 埋物ノ見出シ即チ發見ハ發見人ノ爲メニハ一ノ先
 領ノ場合ナレモ前々先領ノ場合トハ少異ナキニアラ
 ス故ニ此二個先領ノ條件ハ全ク同一ノモノニアラ
 サルナリ

故ニ實際物件ノ占有ヲ取ラサルモ其物件ヲ發見ス
 ルヲ以テ足レリトス即チ其物件ヲシテ眼ニ觸ル可
 キ様ニ爲スヲ以テ足レリトス然ラハ則最少ノ部分

ニ對スルモ尙ホ前ニ等シキカ而シテ縱令ヒ物件ノ
 容量、其埋没ノ深サ、其撥堀ノ危険等カ多少實際ノ占
 有ヲ取ルヲ遷延セシメタル時ト雖モ尙ホ前ト同一
 ナル可キカ豈然ルノ理アラシヤ
 且又物件カ無主ナリト云フノ事ニ至リテモ全ク實
 事ニハ非ラサル可シ何トナレハ物件ノ性質上無主
 ナルモノアル可ラス而シテ大概チ其埋物又ハ隱没
 スルノ事實ハ所有者ノ隨意ノ棄擲アリト思了セシ
 ムルヨリハ寧ロ其所有者ハ注意ヲ極メテ之ヲ保存
 セシナラント思了セシム可キモノトス然ルニ其所

有主ヲ知ルヲ能ハス且ツハ實際之ヲ知ルヲ難キカ
 故ニ法律ニテ埋物ヲ無主物中ニ列セシナリ然レモ
 期滿所得ノ期限經過セサルノ前ニ其所有者カ已ニ
 貯存セシ權利ニ至リテハ毫モ之レカ爲メ妨ケラル
 、ヲナカル可キナリ
 且ツ發見者カ他人ノ物件中ニテ發見シタルノ埋物
 ハ之レニ唯其半額ノミヲ許與スルノ規則ニ至リテ
 ハ法律カ先領ノ諸規則ニ爲シタルノ變則ナルヲハ
 又論ヲ待サルナリ

蓋シ本條ノ佛蘭西法典ト異ナル所ハ即チ本條ニテ

ハ其埋物ノ發見アリタル物件所有者ノ權利ヲ爰ニ
 定メサルヲ是ナリ是レ他ナシ此場合ニ於テハ所有
 者ハ先領ニテ之ヲ獲得スルニアラススシ附添ニテ
 之ヲ獲得スルモノナルヲ以テナリ且ツ又此場合ニ
 於テ所有者ノ埋物ニ付テノ權利ハ常ニ其半額ニ制
 限セラレタルモノニアラスシテ所有者ハ之ヲ全部
 ニ及ホスヲ得可キナリ故ニ此事項ニ關シテ必要
 ナル區別ヲ第二章ニ送ルハ一層理アルノヲト云フ
 可キナリ

埋物ノ事項ニ關シテ顯出ス可キ二三ノ論題ヲ爰ニ

論決スルノ必用アリト思了セス且ツハ是等ノ論題
 ハ本事項ノ原則ニ基キテ之ヲ論決スル敢テ難キコ
 アラサルナリ
 故ニ動産中ニ隱沒シタル埋物モ地中ニ埋沒シタル
 埋物ニ關シタルノ諸規則ニ附從ス可キヲ認知スル
 ニ踴躍ス可ラス且ツ又法律ニテ(埋沒若クハ隱沒)ナ
 ル二語ヲ用ヒシハ暗ニ此二個ノ場合ヲ區別シテ説
 キタルモノトス○佛蘭西法與ハ土地ノノミニ付
 キテ再度マテ説明シタルカ故ニ動産中ニテ爲シタ
 ル發見物ハ之ヲ取除キタルカ如クナリキ○然レモ

同法典ニテ此語ヲ用ヒシハ埋物ノ地中ニ在ルハ最
 モ多キ場合 (quod plerumque fit) トシテ此語ヲ用ヰシニ過
 キサルモノト思了セサル可ラス且ハ學說上ニテモ
 裁判例ニテモ等シク此法律ノ適用ヲ推シ擴ムニ於
 テ一致アルモノナレハ前ノ如ク解スルニ毫モ疑ナ
 カル可キナリ
 然ルニ若シ多人數ノ役夫カ家屋ノ基礎ヲ定ムルカ
 爲メカ井ヲ穿ツカ爲メカ道路ヲ開クカ爲メニ土地
 ヲ撥堀スルノ際ニ其役夫中ノ一人ニシテ鍬ヲ取リ
 テ土地ヲ撥堀シタル者カ其撥堀シタル土地ヲ運搬

スル者ノ目前ニテ埋物ヲ發見シタルノ場合ニハ一層困難アル可キナリ○蓋シ此場合ニ於テハ一般ニ單一ナル發見者即チ單一ナル得益者ハ即チ鍬ヲ以テ物件ヲ掘出シタル者タル可シト決スルモノトス然レモ此論決タル恐クハ余リ狹隘ニ過キタル可シ蓋シ此場合ニ於テ埋物ノ發見アリタル場所ニテ順更リニ鍬及ヒ曲鋤ヲ取ル可キ役夫ノ總体ニ發見者ノ利益ヲ許與スルコトノ難キハ又疑フ迄モナキコトニシテ即チ爰ニハ偶然カ重要ナル職務ヲ行フヲ認許セサル可ラス然ルニ實際ニテハ屢々多人數ノ役夫

ハ同時ニ埋没シタル物件ニ注目シ殆ント常ニ是等ノ役夫ハ悉ク現場ニアリ之レカ爲メ無關係ナル證人ト爲ル者ナク而シテ其主張スル所各同シカラサルコト之レアルモノトス尤モ實際其首位ヲ定ムルニ疑ヒアルノ場合ニハ發見者ニ歸ス可キ埋物ノ半額ヲ是等ノ役夫間ニ分派スルコトヲ認許セサル可ラス○若シ又前ニ反シテ土砂運搬ヲ司トル所ノ役夫ニシテ其運搬シタル土砂ヲ打チ反シテ最初ノ事業ニテ未タ日ニ付カスシテ残りタル埋物ヲ發見シタル時(例ヘハ一片ノ貨幣若クハ一個ノ寶玉ヲ發見シタ

ルガ如キヲ云フハ己前錄ヲ取リタル者ハ其時ニ發見ノ機會ヲ失セシカ故ニ該埋物ニ付テハ何等ノ權利ヲモ有スルコナシ

時ニ或ハ墓地ニ供シタルニアラサル土地ニテ偶然ニ發見シタル古墳ヲ埋物ト見做シ得可キヤトノ論題ヲ生出スルコアル可シ○蓋シ往時ノ埋葬地内ニテ發見シタルモノハ埋物ニアラストシテ之レニ關シタル設例ヲ前論題ヨリ除キタルコノミニ因リテ之ヲ見ルモ前ノ場合ニ於テハ斷シテ然リトノ論決ヲ下スヲ得可シ且ツ又墳墓ニ價額上或ル重要アル

ノ時ニハ死人ノコトニ付キテ外部カ内部ニ何カノ目當アラサルコトハ極メテ稀レナルコトニシテ其目當ヨリシテ其親族ヲ尋テ出スハ敢テ難キコトニハ非ラサル可シ○又前ノ場合ニ於テ其親族ヲ尋テ出スコトノ難キ時ハ發見者ノ其發見物上ニ權利ヲ有スルコトヲ許與スルニ於テ實ニ何等ノ害モアル可ラス然ラサルレハ己上ノ發見物ノ全部ハ之レニ毫モ關係セサル土地所本者ノ利益ト爲ルニ至ル可キナリ(附言アリ)尙ホ惡意占有者ノ如キ他人ノ土地上ニ爲スノ權利ヲ有セサル事業ヲ爲シタルニ依リテ埋物ヲ發見シ

タル所ノ者即チ例ヘハ隣人カ比隣ノ土地内ヨリ砂礫又ハ泥土ヲ取り來ラントシテ埋物ヲ發見シタルカ如キ場合ニ於テ一個ノ論題アリテ顯出ス可シ○蓋シ此發見者ハ之レカ爲メ利益ヲ有スル僅少ナルカ如シ然レトモ自己ノ爲シタル過失アルカ爲メ負擔ス可キ要償ヲ貯存スルルハ此過失ハ發見ニ機會ヲ與ヘシモノニ外ナラスシテ具過失アルカ爲メ別ニ發見ノ性質ヲ變換スルコトナシ何トナレハ土地所有者ハ未ダ發見セラレサル埋物ニ何等ノ權利ヲモ有ス可ラス是即チ其土地ノ一部分ニ非ラサルヲ以

テナリ

主タル物件ノ所有者ノ利益ニ於ケル埋物ノ附添事項ニ於テ取り毀チノタメ賣渡サレタル家屋ノ壁裡又ハ基礎中ニテ埋物ヲ發見シタル時ハ其埋物ノ一半ヲ得ルハ土地所有者ナルヤ將タ取毀チ家屋ノ所有者ナルヤトノ論題(此事ニ關シテ一個ナラサル)ヲ檢定ス可シ

附言 日本ニ於テハ皇族ノ古墳ニシテ内亂及ヒ天災ニテ其蹤跡ヲ失ヒシモノニ付テハ反對ノ條例アリテ存スルモノト思ヒセリ然レトモ此事ニ關

スル例外アルニ因リ却テ此性質ヲ有セサル墳墓
ニ關スルノ規定ヲ確認シ得可キナリ

第六百七條 法律ニテ若シ土地所有者ニシテ埋物ノ
發見アリタル後チ直チニ其物件ヲ請求セサルキハ
土地所有者ハ其取戻ノ權利ヲ失ス可シト宣言ス可
カラズ是ノ如キハ即チ實ニ土地所有者ヲシテ其權
利ノ實行ニ難ンセシムルモノト云フ可シ何トナレ
ハ縱令ヒ之ヲシテ土地所有者ナラシムルモ埋物發
見ノ時ニ正ク現場ニ在ルハ實ニ非常ノトニシテ殆
ント有リ難キノト云フ可シ然ルニ今一步ヲ進メ

テ其現場ニ在リシトセン乎是レニテモ尙ホ土地所
有者ハ直チニ其權利ヲ証スルノ方法ヲ有スルト難
カル可ケレハナリ

佛蘭西ニテハ埋物所有者ノ其權利ヲ利用スル爲メ
ニハ何等ノ特別ナル期限ヲモ定メス故ニ該所有者
ハ物上訴權及ヒ對人訴權ニ付テノ普通ノ期限即チ
三十年間ノ期限ヲ有スルモノト決シタリ(第二千二
百六十二條)蓋シ是レ甚タ長キニ過タルモノト云フ
可キナリ○爰ニテハ動產物取戻ニ關スルカ故ニ取
戻訴權ヲ妨遏ス可キ(瞬間ノ期滿所得ノ)一種アリテ

存ス可シト主張スルハ實ニ理ナキノコト云フ可シ
 (第二千二百七十九條)○此條ハ爰ニ適用ス可キモノ
 ニアラサルナリ○先ツ此條ヲシテ爰ニ適用ス可キ
 モノトセン手所有權ハ全然無効ノモノト爲ル可キ
 ナリ蓋シ發見者ノ埋物ヲ獲得スルハ其所有權ノ証
 明シ得可ラサル時ニ限ルモノニシテ而シテ其所有
 權ハ嘗テ証明セラレス又有用ナル時限内ニハ証明
 セラレサル可シ○次ニ占有者カ第二千二百七十九
 條即チ(動產物ノ事ニ付テハ占有ハ權証ノ効力ヲ有
 ス可シ)云々トノ有名ナル格言ニ據リテ動產物ノ取

戻ヲ拒絕スル爲メニハ該占有者カ民事上ノ占有ヲ
 有スル而已コテハ足レリトセス則チ占有者カ握^{コルホレエ}
 ト意思^{アニモ}トヲ有スル而已ニテハ足レリトセス尙ホ占
 有者ハ其占有ニ正當^{シユスト}ノ原由^{コラス}(又正當^{シユスト}ノ名義^{チイトル}トモ云フ)
 ヲ有セサル可ラス(第九十四條參觀)然ルニ埋物發
 見ノ事ハ正當ノ名義ニアラスシテ之レヨリ超エタ
 ルモノナルカ又ハ之レニハ足ラサルモノタル可シ
 即チ若シ物件カ無主ナル時ハ發見ハ發見者ヲシテ
 直チニ所有者タラシムル^{完全ナル}名義ナリトス又
 之ニ反シテ物件ニ所有者アルノ場合ニ於テハ縱令

ヒ發見者ハ第三ノ人ハ之レニ何等ノ權利ヲ有セサルモノト思了シタリト雖モ發見人ニシテ之ヲ獲得スルハ只奪取タルニ過キサル可シ而シテ發見者ノ此權利ノ不知ハ若シ發見者カ物件保存ニ於ケル自己ノ過失ノ責任ヲ負擔スルルキハ(正意)ト名稱セラレ可シ然レハ此正意ハ第三ノ人ト爲シ而シテ之レニ所有權ヲ移轉ス可キ所爲ニ基キタルモノニアラサレハ其第三ノ人ヲシテ第二千二百七十九條ノ利益ヲ獲得セシムルモノニ非サルナリ

然レハ草案ニテハ三十年間カ又ハ草案ニテ尙ホ未

タ規定セサル期滿免除ノ普通ノ期限間ハ實所有者ノ取戻訴權ヲ存立セシメサル可ラサルモノト思了セス○唯正意占有者ノ利益ノ爲メ極メテ短縮ナル期限ヲ定メ(爰ニ正意ト云フハ只正實ヲ云フニ過キス)而シテ尙ホ之レヲ定ムルニモ區別ヲ以テ定メタリ○埋物發見者及ヒ其埋物ノ發見アリタル物件ノ所有者ニ對シテハ兩者各其己レニ屬スヘキ部分ノ爲メ埋物ノ實所有者ノ訴權ハ發見アリタル時ヨリ三年間繼續スルモノトセリ○然レハ若シ主タル物件ノ所有者自ラニシテ埋物ノ所有者ナリト主張ス

ル片ニハ其訴權期限ハ一年ニ減セラル可シ何トナ
 レハ該所有者ハ己レノ所有權アル物件内ニテ發見
 シタル物件上ニ其權利ヲ證明スルコナレハ之レカ
 爲メ深ク思慮スル所アル可ク且ハ是ノヨニ依テモ
 其証明ハ一層容易ナル可ケレハナリ○然レモ其期
 限ノ起算點ニ至リテハ各異同ナキニアラス是即チ
 埋物ノ發見[○]コアララスシテ埋物ニ有セシ確知[○]シテ
 其埋物ハ該所有者ニ藏サル可キモノナレハナリ(附
 言アリ)

然ルニ期滿所得ノ期限ヲ三ケ年又ハ一ケ年ニ減ス

ル爲メニハ埋物ニ利益ヲ有スル者ハ正意ナラザル
 可ラス即チ其埋物ニ利益ヲ有スル者ハ其埋物ノ實
 所有者ノ何人タルコトヲ知ラサルヲ要スルコト是ナリ
 之ニ反スルノ場合(即チ惡意^ア)ニ於テハ實所有者發
 見者共ニ最早前ノ利益ヲ得ルコト能ハス普通ノ民事
 期滿所得ヲ適用ス可キモノトス

附言 新刑法(第三百八十六條)ハ他人ノ所有地内ニ
 テ發見シタル埋物ヲ隱匿スルノ所爲ハ輕罪トシ
 テ之ヲ罰セリ

第二章 附添

第六百八條 不動産ト動産トヲ問ハス一個物ノ所有者ハ己下ニ定メタル區別及ヒ賠償方法ニ從ヒ其物ニ從屬シテ附合スル總テノモノヲ獲得スルモノトス〔佛蘭西法典第五百四十六條、第五百五十一條〕

第六百九條 土地又ハ家屋ノ上下ニ爲シタル總テノ建築、植物及ヒ其他各種ノ事業ハ所有者自己ノ費ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト推測ス可シ但シ反証アルキハ此限ニ在ラス〔第五百五十三條〕

何レノ場合ニ於テモ其事業、建築物ノ所有權ハ其土地家屋ノ所有者ニ屬ス可シ但シ第三ノ人ノ利益ニ

於ケル權証若シクハ期滿所得ノ存スルキハ格別ナリトス〔全上〕

植物ニ關スル場合ハ第六百十一條ニ規定ス可シ

第六百十條 若シ土地又ハ家屋ノ所有者カ他人ニ屬スル所ノ材料ヲ以テ建築又ハ其他ノ事業ヲ爲シタル時ハ縱令ヒ惡意ニテ之ヲ爲シタルモノト雖モ該所有者ハ之ヲ破壊シ其材料ヲ返附スルヲ要セス且ツ又該所有者ハ材料ノ屬スル本主ニ其材料ノ引取リヲ命スルトハ尙ホ以テ得サル可シ然レモ所有者ハ第四百五條ニ規定シタル區別ニ從ヒ材料ノ所有

者ニ賠償ヲ爲ス可キ裁判言渡ヲ受ク可シ

第六百十一條 他人ニ屬スル樹木、矮樹又ハ植物植付

ケノ事ニ付テハ其植付ノ年内ニ土地ノ所有者ヲシテ強テ之ヲ拔キ取ラシメ且ツ其植物ノ所有者ニ於テ受ケタル損害アルキハ其賠償ヲ併セテ之ヲ其所
有者ニ返附セシムルヲ得可シ
右ノ樹木又ハ矮樹ノ所有者之ヲ取戻サ、ルヲ好
シトシ又ハ一ケ年ノ經過シタルキハ其所有者ハ金
圓ニ於ケル賠償ヲ受取ル可シ

註解

第六百八條 (附添)ナル語ハ佛蘭西語ニテハ一物カ附

從、附合即チ關係ノ性質ヲ以テ他物ニ集合スルノ意
義ヲ表示スルモノトス

而シテ其集合ハ形体上ノ性質カ之レニ對抗スルカ
又ハ法律ト公益カ之ヲ許容セサルニ依リテ破壊シ
得可ラサルモノナルカ故ニ是場合ニ於テ附添ハ主
タル物件ノ所有者ノ爲メニハ附合物件ノ所有權ヲ
獲得スルノ方法トナル可シ(イ附言アリ)若シ又二個
物件ノ分割ハ性質上及ヒ法律上共ニ爲シ得可キモ
ノナル時ハ此場合ニ於テハ各所有者ハ己レニ屬ス

ル所ノモノニ付テ其所有權ヲ保有ス可キカ故ニ附
 合物ノ屬スル本主ハ其物件ノ分割ヲ請求スルト同
 時ニ之レカ取戻ヲ請求スルヲ得可シ(口附言アリ)○
 即チ本條ニ於テ充分ニ其原則ヲ記載セサリシハ蓋
 シ己上ノ區別アリ且ツハ其他ノ區別アリテ存スル
 ヲ以テナリ
 然レモ附添ニ依リテ他人ノ物件ヲ獲得セシ者ノ其
 附添物件ノ屬スル所ノ本主ニ賠償セサル可ラサル
 ノコトハ無論ノコトニシテ法律ハ直チニ之レカ貯存
 ヲ爲セリ

佛蘭西法典(第五百四十六條及ヒ第五百四十七條)及
 ヒ同法典ヲ本トシテ規定シタル諸制法ニテハ附添
 ノ第一ノ適用トシテ所有者ノ爲ス可キ果實及ヒ物
 産ノ獲得ヲ附與セリ

イ附言 羅馬ニテ「アクセツシヨ」ナル語ハ集合ノ事實
 ヲ云フニアラスシテ集合シタル物件即チ附合シ
 タル物件ヲ云ヒタリ而シテ羅馬人ハ集合ヲ以テ
 公然獲得ノ方法ト爲シタルニハアラサルカ如ク
 ナリキ

ロ附言 羅馬法ニテハ附添物件ノ所有者ハ先ツ豫

メ其物件ヲ分離セシメ、示サシメ、見ハサシムルカ
 爲メ (ad exhibendum) ト名ツクル對人訴訟ヲ起サ、ル
 可ラサリキ然レモ今日ニ於テハ是等ノ訴權ハ之
 ヲ併合シテ一ト爲スヲ得可キナリ
 草案ハ誤謬ナルト顯然タル此說ヲ摸倣セス蓋シ果
 實及ヒ產物カ所有者ニ屬スヘキハ必然ノコナリ(勿
 論其物件カ第三ノ人ノ爲メ貸貸セラレ又ハ入額所
 得權ヲ附着セラレサルモノト仮定シテ)ト雖モ敢テ
 附添ニ因テ然ルニ非ラス亦タ何等ノ特殊ナル獲得
 ノ方法ニ因テ然ルニモ非ラス三个ノ性質ヲ以テ組

成セル所ノ所有權ノ直接ナル効力ニ因リテ然ルモ
 ノナリ三个ノ性質トハ使用ノ權、收益ノ權及ヒ處分
 ノ權即チ是レナリ(第三十一條)
 然ラハ則チ何レノ時ニ於テ所有者其物件ノ果實ヲ
 獲得スト謂フ可キヤ○佛蘭西法典ニ據レハ天然ノ
 果實ハ其土地ヨリ分離セル時ニ於テ之ヲ獲得スル
 モノト爲ス是レ入額所得者ニ在テハ其當ヲ得タル
 モノナリ(第五十四條及ヒ第五十五條、佛蘭西法典第
 五百八十五條參觀)又獸類ノ子ハ其生ル、ノ時ニ於
 テ之ヲ獲得スルモノト爲ス果シテ然ルヘキモノナ

レハ則チ其獲得ハ集合レクニヨシ、附添ニ由ルモノニ非スシテ
寧ロセムラシヨシ分離ニ由ルモノト謂ハサル可ラス

蓋シ真理ノ在ル所ヲ考フルニ所有者ノ爲メニハ幹

ト花ト果トノ間ニ法律上ノ差異アルニアラス又果

實モ熟果ト生果トノ間、枝根ニ附着スルモノト收穫

シタルモノトノ間ニ差異アルニアラス又獸類ノ子

モ其牝獸ノ胎内ニ在ルモノト既ニ出生シタルモノ

トノ間ニ差異アルニアラスナリ○左レハ天然ツクニメ、ナリ

現象ニ關スル此區別ニ就キ利益ヲ見ント欲セハ須

ラク所有者ト第三ノ人即チ借地人、使用者若クハ入

額所得者又ハ土地或ハ獸類ノ買主トノ間ニ紛議ア

ルノ際ヲ仮想ス可シ○例ヘハ右終リノ場合ニ於テ

賣買ノ行ハレタルヤ收穫前又ハ獸子出生前ナルキ

ハ買主ハ有リ形チノ儘ニテ物件ノ所有者ト爲ルモノナ

レハ果實及ヒ獸子ヲ得ルノ權アルモノトス然ルニ

果實ノ收取又ハ獸子ノ出產ニ續テ賣買ノ行ハレタ

ルキハ之ヲ得ルノ權アラサルモノナリ蓋シ此際ニ

在テハ此等ノ物件タル獨立、各別ナル一エンチヒニアリデー体ヲ成シ從

テ主タル物件ノ賣買中ニ包含セサルト伐倒シタル

樹木、土地ヨリ採掘シタル砂石又ハ剪毛トント後綿羊ノ毛

ヲ包含セサルト一般ナリ
 本條ハ附添ヲ偏ヘニ所有權ノ一个ノ利得ナリトシ
 テ掲出セリ○然レヒ之ニ據テ所有權ノ支分權主ハ
 毫モ附添ニ參加セサルモノト謂フ可ラス○左レハ
 入額所得者ノ若キハ入額所得地ヲ増加スル所ノ漸
 積地其他ノ洲ヲ收益スルモノナリ(第六十七條○佛
 蘭西民法第五百九十六條第五百九十七條參觀)借地
 人ニ就テモ亦タ同様ニ決定ス可シ(第三百三十三條)
 然ルニ法律カ單リ所有者ノミヲ言ヘルハ是レ其編
 纂ヲ繁雜ナラサラジメシカ爲メニシテ且ツ其他ノ

物上權主ノ權利ハ各々其處ヲ得テ之ヲ列叙シタレ
 ハナリ
 加之ス對人權モ亦タ附添ニ因リテ擴張スルヲ得ル
 モノナリト謂フヲ得可シ○例ヘハ一箇ノ債主權當
 初ハ單ニ通常ノモノタリ又ハ保證ナカリシニ爾後
 書入質、判産質又ハ保證ヲ以テ擔保セラレタル時ノ
 若キ此附添シタル諸權利ハ權利者ニ屬スヘキモノ
 ニシテ若シ其債主權既ニ第三ノ人ニ讓渡セラレシ
 ナラハ第三ノ人此新擔保ヲ享受スヘシ其場合タル
 此權保當初瑕瑾アリテ無効タリシニ讓渡後確認又

ハ更新セラレタル地キテ仮想セハ隨分實際ニ之レアル可キナリ

第六百九條 本條ハ性質頗フル別異ナル二箇ノ各別

ノ條例ヲ包含スルモノナリ○佛蘭西法典ハ唯一ノ法文中此二條例ヲ集合シテ(第五百五十三條)遂ニ其中一個ノ勢力ヲ微弱ナラシメタリ然レモ學問上並ニ裁判上ノ解釋更ラニ其價格ヲ回復シタリ○佛蘭西法典ニ據レハ此際ニハ二個ノ推測アリテ而シテ兩ナカラ反對ノ證ヲ以テ辯駁ヲ加フルヲ得ヘキモノトス其推測トハ第一ニハ建築、工作及ヒ植付ヲ爲

シタルモノ所有者ニシテ且ツ其費用ヲ以テシタルノ推測第二其之レニ屬スルノ推測即チ是レナリ○然ルニ佛蘭西法典ニハ第二ノ推測ヲシテ第一ノ推測ニ基カシメ從テ第一ノモノ辯駁シ去ラル、ニ於テハ第二ノ推測モ亦チ自カラ其力ヲ失フモノ、如シ○然レモ是レ其實法律ノ精神タルニ非サルナリ縱令ヒ其建築及ヒ工作ハ土地又ハ建造物ノ所有者ニ非サル者ノ爲ス所タル證アルモ亦チ該工作及ヒ建造物ハ所有者ニ屬ス可キモノトス但シ其不當ノ利得ノ故ニ賠償ヲ與ヘ又否ラスシテ或ル區別ニ從

ヒ木材ヲ毀壞、除去セシムルノ權ヲ行フルハ格別ナ
リトス

又右二個ノ條例ニハ法律上ノ推測ノ性質ヲ附スル
ト雖モ其第一ノモノハ單[○]純[○]ナルモノ即チ一切ノ反
證ヲ容ルヘキモノナルコトヲ認メサルヘカラス然ル
ニ第二ノモノニ至テハ純全[○]ナルニハ非サレ[○]モ之ヲ
顛覆スル[○]ト困難ナルモノナリ蓋シ第二ノモノハ第
三ノ人ニ該工作ノ讓渡ヲ行フタル證書若クハ第三
ノ人ノ長期ノ占有ヨリ生シタル一他ノ推測ナル期
滿得免ノ外他ニ反證ト爲ス可キモノアラサルナリ

右ノ際ニハ畢竟羅馬法以來ノ格言ノ適用アルモノ
ナリ曰ク「凡テ地上ニ建築セル所ノモノハ其地ニ附
添ス」(omne quod in xdificatur sol cedit)ト

草案ノ本條ハ實ニ此意義ヲ取テ編纂シタルモノナ
リ
本條ハ佛蘭西法典ト異ナリテ建[○]築[○]物[○]其他ノ工作ト
植[○]付[○]物[○]トノ間ニ一ノ差別ヲ立テタルコトニ注意スヘ
シ即チ植付物ニ付テモ亦タ建築物ニ於ケルト同様
其土地ノ所有者自己ノ費用ヲ以テ作爲シタルモノ
ナリトノ推測ハアレ[○]モ一タヒ其他人ノ苗[○]木[○](樹木、矮
ブラン)

樹若クハ植物ヲ以テ作りタルノ証アルニ於テハ第六百十一條ニ言ヘル如クノ所有者一ケ年間ニ之ヲ取戻サ、ルキニ非スンハ其所有權ヲ獲得スルヲ能ハサルモノトス○此例外則ヲ辨明スルハ即チ第六百十一條ナリトス

第六百十條 本條ニ於テハ所有者他人ノ材料ニテ建築シタルノ證據ヲ以テ辨駁シタル第一ノ推測ヲ想像シ而シテ又第二ノ原則即チ右ノ材料ヲ獲得スルノ原則ヲ適施セリ但シ損害賠償ノコトハ此限ニ在ラス

茲ニハ右ノ條例ヲ證明スルヲ要ス而シテ此條例ハ一見スル所ニ依ンハ動產所有權ノ原則ニ反スルモノ、如キカ故ニ人ヲシテ驚愕セシムルコトヲ得蓋シ動產ノ所有權ハ之ヲ不動產ノ所有權ニ比シテ敢テ尊重ス可カラサルモノニ非ス

材料ハ其所有者ヨリ之ヲ取戻スコトヲ得スト陳述シタルモ之レヲ以テ法律ヲ說明證明スルモノナリト思惟ス可カラス斯ク陳述シタルハ是レ其材料ハ本トノ儘ニテ存在セス即チ一箇ノ建築物トナリタルニ因ルナリ(附言アリ)最モ最初見ル所ニ於テハ毫

モ其材料ノ存スルコナキモ建築物若クハ諸工事ヲ破毀スル以上ハ再ヒ之レヲ顯出セシムルヲ得可ケレハナリ然ルニ法律ニ於テハ斯ク破毀スルコトヲ許サス故ニ茲ニ證明ヲ要スルモノハ即チ此禁止ノ事柄ニ外ナキナリ

附言 此事ニ關シテハ左ノ如キ從來ノ格言アリ即チ消滅シタル物ハ再ヒ之レヲ取戻スヲ得ス(羅甸語ニテ之レヲ *[res extinctae de vindicari non possunt]* ト云フ)ト是レナリ

既ニ羅馬法律ニ於テハ先行ノ所有權取戻シ訴權ト

シテ斯ク破毀セントスル所ノ *[indexlibendum]* ナル對人訴權ヲ行フコトヲ禁シタリ(第六百八條註解附言「呂」ヲ見ヨ)帝國ノ法律ハ既ニ上古(附言アリ)ノ制ニ係ル所ノ一箇ノ禁止法ヲ更新シ以テ充分奇怪ナル一箇ノ理由ヲ附與セリ即チ(類壞物^{リユイヌ}ヲ以テ市府ヲ醜汚ニス可カラス)ト是ナリ蓋シ此理由タル其字面ニ因ルニ村落田舎ニハ毫モ之レヲ適用シ得サルカ如シト雖モ亦其禁止法ハ一般ニ涉レルモノナリ○共和及ヒ帝國ノ二期ニ於テ當時ノ立法者ハ建物ノ増加ヲ希望シ且ツ材料ノ所有者ニシテ自己ノ意無ク之レヲ失

七而シテ其賠償ヲ受ク可キ者ハ稍ヤ困難ヲ究ム可
 キモ尙ホ此者ニ比シテ一層家屋ノ破毀ニ就キ困却
 スヘキ所ノ公益ニ注意セシモノナリト思惟スルハ
 最モ正當ノトトス○是レ即チ市府ノ形容ハ幾分カ
 之レヲ重シシ而シテ田舎ノ利益モ亦大ニ計畫セラ
 レシトヲ證明ス故ニ此場合ニ於テ夫ノ十二銅表ノ
 法律ハ葡萄樹ヨリ其蔓ノ附着シタル支柱ヲ拔キ取
 リ又家屋ヨリ梁木ヲ取除クトヲ禁止セリ
 附言 斯ク建築物ヲ破毀スレノ禁止ハ殊ニ其材料
 ノ全部若クハ一部ヲ其舊所有者ニ返還スルトニ

就テハ完全ノ必要アルニ非スシテ之レ既ニ共和
 ノ初年ニ於テ夫ノ十二銅表ニ記載セシモノナリ
 尙又今日ニ於テモ公益ト經濟トノ理由ヲ以テ當時
 法典ノ同一ノ條例ヲ證明ス可キモノトス○然レト
 モ此條例ハ制限ヲ受ケタリ即チ何レノ法律ニ於テ
 モ此條例ヲ葡萄樹ノ架杖及ヒ其支柱ニ適用セサル
 ハ言テ俟タス且我草案ニ於テモ植物カーケ年ヲ經
 ルノ條件ニ依ルニ非サレハ之レニ右ノ條例ヲ適用
 セサリシナリ(第六百十一條)
 我カ法文ハ惡意ノ占有者ニ就テモ其規則ヲ變更セ

ス蓋シ常ニ經濟上ノ理由ニ由テ然ルモノトス○又法律ハ土地ノ所有者カ材料ヲ返還スルヲニ強ヒラレサルヲ以テ尙更材料ノ舊所有者ヲシテ其受ケタル所ノ減價ト有期ノ失權トノ賠償ヲ與フルモ強テ其材料ヲ受取ラシムルヲ得ス○斯ノ如キ論決ハ法文ヨ之レヲ掲ケサルモ全ク補充セラレタルモノトス何トナレハ該論決ハ實ニ道理ニ依テ斯ク命セラル、ノミナラス又公平ノ點ヨリモ之ヲ命スルモノナレハナリ而シテ其道理ノ命スルトハ蓋シ土地ノ所有者ハ材料ノ所有者トナリタルニ由ル然レハ

則チ何人ト雖モ自己ニ屬スルモノ、讓與ヲ強テ爲サシムルヲ得ス又公平ノ點ヨリ命スルトハ反對ノ論決ニテ材料ノ舊所有者ヲシテ土地ノ所有者ノ隨意ニ委テシムルモノナレハナリ

今ヨリ賠償ノ方法ニ就テ論ス可シ○法律ハ第四百五條ニ送リヲ設ケ以テ本條即チ第六百十條ノ條例ヲ簡單ナラシメダリ○此第四百五條ハ合意不執行ヨリ生スル損害賠償ノ爲メニ設ケラレタルハ明カナリ然レトモ吾人ノ從事スル不當ノ利得ノ場合ニシテ建築者ノ善意ナル場合及ヒ惡意ノ場合ナル夫

ノ不正ノ損害ノ場合ニモ亦此第四百五條ヲ適用スル爲メノ同一ノ理由アリ○既ニ第三百九十條カ同一ノ條例ニ關シタルハ概シテ總テノ不正ノ損害ノ爲メニ然ルモノトス

故ニ善意ノ建築者ハ其使用シタル材料ノ現價（現價ノ外ニハロー、ベナール）ニ自カラ不注意者ナラサリシニ於テハ豫見シ得ヘカリシ損害賠償ヲ拂ヒ而シテ惡意ノ建築者ハ自カラ豫見セサリシ損害賠償ト雖モ其賠償ハ犯罪ヨリ生ス可キ必要且避ク可カラサル結果ナルニ於テハ乃チ之レヲ拂ハサルヘカラス

第六百十一條 植附ノ事項ニ於テ我草案ハ佛蘭西法典ト異ナレルトヲ述ヘタリ然ルニ草案ハ此事項ニ付キ尙ホ伊太利亞法典トモ異ナレルトヲ掲ク可シ

實ニ此等ノ法典ハ植附ヲ以テ建物ト同等視シ而シテ己ノカ承諾ヲ經スシテ使用ヲ受ケタル所ノ植物ノ所有者ニ對シテハ其植物ヲ取戻ス爲メ之レヲ拔取ラシムルトヲ禁シタリ○然レトモ斯ナル取戻ヲ禁止スルニ就テハ前同一ノ經濟上ノ理由アルトナシ何トナレハ樹木ヲ其所有者ニ復歸スルカ爲メ土地ヲ變更スルモ敢テ著シク其有益ヲ失フニ非ス故

所有權ヲ供給スルヲ良シトセサルモノナレハナ
 リ
 然リト雖モ植物カ不當ニ栽植カレタル土地ニテ培
 養繁茂シ得ル程ノ充分永キ時間マテハ右ノ取戻ヲ
 允許スルヲ得サリキ故ニ法律ハ此取戻訴權ノ期
 満トシテ一ケ年ヲ規定セリ斯ノ如キ方法ハ羅馬法
 律ノ方法ノ如キ不都合ヲ生セス蓋シ羅馬ノ方法ハ
 樹木ヲ不當ニ受取リシ土地ニ於テ「其木根ヲ發生セ
 シヤ否チ」知了スルノ困難ナル證明ヲ必要トセシヲ
 以テナリ植物ノ所有者一年內ニ取戻訴權ヲ實行ス

ルニ於テハ場合ニ因リ自己ノ受ケタル失權ト減價
 トノ爲メニ損害賠償ヲ受ケサルニ非ス○一ケ年ヲ
 經過シタル片ハ植物ノ所有者ハ樹木ノ價直ニ權利
 ナ有ス○然レトモ此所有者以後ノ爲メ其取戻訴權
 ヲ拋棄セシキニ於テハ敢テ此價直ヲ訟求スルカ爲
 メ一ケ年ヲ待ツニ及ハス○但シ土地ノ所有者ハ植
 物ノ所有者ヲシテ強テ其植物ヲ一年內ニ拔取ラシ
 ムルヲ得サルモ植物ノ所有者ヲシテ其取捨ヲ告
 グルヲ付キ遲滞ニ付スルヲ得可シ
 法文ハ樹木、矮樹又ハ植物ノミヲ陳述スルノ注意ヲ

爲セリ故ニ法文ハ他人ノ土地内ニ於テ所有者ノ允
許ヲ經スシテ下種シタル可キ他人ノ穀物ノ場合ニ
ハ適施セス蓋シ此場合ニ於テハ賠償ヲ要スルノ外
ナシ何トナレハ播種物ヲ一旦拔取リタルキハ既ニ
其穀物ニアラサレハナリ

第六百十二條

建物ヲ毀壞スルカ爲メ之レヲ賣渡シ

又ハ贈與シ若クハ樹木ヲ拔取リ又ハ伐採スルカ爲
メ之レヲ賣渡シ又ハ贈與シタル所有者ハ其建物又
ハ植物ヲ保存スル爲メ其買主又ハ受贈者ニ賠償ヲ
與ヘテ常ニ其毀壞又ハ伐採ヲ停止スルコトヲ得可シ

第六百十三條

土地又ハ建築物ノ善意ノ占有者ニシ

テ其土地又ハ建築物内ニ自己所有ノ材料樹木又ハ
矮樹ヲ以テ工事若クハ植附ヲ爲シタル者ハ眞ノ所
有者ヨリ該不動産ノ取戻ヲ受ケタル場合ニ於テ此
等ノ事業又ハ植物ヲ取除クニ及ハサル可シ但シ眞
ノ所有者ハ自己ノ撰擇ヲ以テ若クハ材料及ヒ職工
ノ代價若クハ其事業ヨリ不動産ニ生スル増價ヲ其
占有者ニ拂フ可シ

若シ其建築者カ惡意ノ占有者ナリシキハ所有者ハ
其占有者ヲシテ土地ヲ以前ノ景狀ニ復セシメ以テ

其事業及ヒ植物ヲ強テ毀タシメ加フルニ損害ヲ受ケタル時ハ其賠償ヲ拂ハシムルヲ得可シ而シテ又所有者ハ前項ノ手續キニ從ヒ占有者ニ賠償ヲ與ヘテ該事業及ヒ植物ヲ保存スルヲ得可シ〔佛蘭西法典第五百五十五條〕

第六百十四條

船シ得可キ浮筏シ得可キモノト否ラ

サルトナ間ハス水流ノ漸積地ヨリ生シタル洲又ハ

加添ハ沿岸ノ所有者ニ屬ス可シ

若シ漸積地カ水流ニ併行シ又ハ殆ント併行シタル數多ノ沿岸ノ土地ニ生シタルキハ所有者ノ各自其

所有地ノ内部ニ於テ有スル部分ノ廣狹如何ニ拘ハラズ水流ニ接續シタル自己ノ土地ノ總テノ部分ニ就キ其漸積地ヲ利得ス可シ
若シ之ニ反シテ漸積地カ水流ト共ニ數箇ノ角度ヲ組成シ而シテ其角度タルヤ沿岸所有者ノ各自ニ其沿岸所有者タル性質ヲ有セシムル様ニ其各自ニ屬ス可キ部分ヲ確定スルヲ難カラシムルモノナルキハ其所有者等ハ舊水流ニ接シタル所有地ノ廣狹ノ割合ヲ以テ其分配シ能ハサルモノト認メタル漸積地ノ部分ニ付キ何レモ未分ノ共同所有者タル可シ

何レノ場合ニ於テモ沿岸ノ所有者等ハ行政廳ノ允許無クシテハ既ニ存在シタル挽船道又ハ通路ノ位^{ラースマン}置ヲ變更シ又ハ中間ノ漸積地上ニ挽船若クハ航海ノ使役ヲ妨害シ得可キ建物又ハ植附ヲ爲ス事ヲ得ス〔第五百五十六條〕

註解

第六百十二條 本條ハ佛蘭西法典ニモ荷伊太利亞法典ニモ存セサルモノニシテ第六百十條ト同一ノ經濟上ノ原則ニ基クモノナリ然レモ法律上殊更本條ヲ説明スルヲ要スルモノハ蓋シ茲ニハ第六百九條

ニ於ケルト等シク最モ著シク普通法ニ變則ヲ設ケタレハナリ○實ニ此六百九條ハ反對ノ權證アルニ非レハ土地ノ所有者ニ建物及ヒ植附ノ所有權ヲ認許セス然ラハ則チ建築物ヲ毀壞シ及ヒ取除クカ爲メ之レヲ讓與シ又ハ讓渡スル事及ヒ代採若クハ採取ルカ爲メ樹木森林ヲ讓與スルヲハ即チ自己ノ所有權ニ反對ノ權證ナルヤ明カナリ此場合ニ於テハ此等ノ物件ノ所有權ヲ第三ノ人ニ移轉スルノ合意アリテ則チ此物件ハ未タ土地ヨリ離レサル間ト雖モ亦用方ニ因ル動產トナリタルモノナリ(附言アリ)

○故ニ一方ニ就テハ結約者双方(第三百四十八條)間
 ニ法律ヲ組成スル所ノ合意ノ尊重及ヒ他ノ一方ニ
 就テハ物件ノ性質ノ變更ハ共ニ土地ノ所有者ニシ
 テ此等ノ物件ヲ保有セントスルハ其意思ニ妨碍ヲ
 爲ス可キモノ、如シ

附言 第十三條ハ此等ノ物件ヲ以テ用方ニ因ル動
 産中ニ舉示セスト雖モ用方ニ因ル物件ハ左ノ如
 シ[○]ノ語ヲ用キタレハ乃チ制限セルモノニ非サル
 ナリ○他又第十三條ニ左ノ如キ事項(即チ[○]第[○]四[○]項[○])ヲ附
 加スルハ容易ナリ[○]第四項 毀壞及ヒ取除クカ爲

メニ讓渡シタル建築物及ヒ工事、拔取ル可キモノ
 ト定メタル樹木、矮樹及ヒ収獲物

然レトモ若シ吾人ニ於テ土地ノ所有者ヲシテ最初
 己レニ屬セカリシ材料ノ所有權ヲ保有セシムルコ
 チ允許シ且ツ法律ニ於テハ經濟上ノ目的ヲ以テ建
 築物ノ毀壞セラレサルコトヲ撰擇スルコトヲ觀察シ來
 レハ(但シ所有者ニ賠償ヲ與フルハ此限ニ在ラス)夫
 ノ毀壞スルカ爲メニ建築物ヲ賣渡シ又ハ之レヲ贈
 與セシ所ノ所有者ニ對シ其毀壞ヲ妨ケ又ハ停止ス
 ルコトヲ許容スルニ就テノ同一ノ理由アルコトヲ見ル

可シ但シ買主又ハ受贈者ニ賠償ヲ與フルハ此限ニ在ラス斯ノ如ク所有者ニ允許シタリト雖モ建物ヲ保存スルカ爲メニシテ他ノ一箇人ニ之レヲ賣渡シ又ハ之レヲ附與スルニ出テサランコトヲ要トス○是ヲ以テ斯ノ如キハ眞實ニ所有者ノ意思ニシテ且詐欺ヲシテ其効ヲ有セシメサル等ノコトヲ認知スルハ是レ裁判所ノ擔任ス可キトス

植附ニ關シテモ亦其規則同一ナリ而シテ此點ニ就キ舊植附上ニ存スル土地ノ所有者ノ權利タルヤ此植附ヲ保存セント欲スル以上ハ夫ノ不當ニ所有シ

タル植附上ニ存スル種利ヨリ一層廣大ナリ何トナレハ不當ニ所有セラレタル植物ハ土地ノ所有者自己ノ地上ニ之レヲ植附タリシヨリ一ケ年ヲ經過スルニ非サレハ確然之レヲ獲サレハナリ

第六百十三條 本條ニ於テモ亦土地ノ所有者ニ屬セサル材料ヲ以テ建築シタル建築物上ニ有スル其者ノ權利ヲ掲ケタリ然レトモ該建築物ヲ建築シタル者ハ此土地ノ所有者ニ非サル場合トス此場合ニ於テハ土地ノ所有者ニ毫モ過失ナシト云フヲ得故ニ其權利モ亦一層廣大ナリ即チ土地ノ所有者ハ自己

ノ許シヲ經スシテ其土地内ニ設置シタル建物ヲ保
存シ若クハ之レヲ保存セサルノ權利ヲ有ス而シテ
若シ之レヲ保存スルニ於テハ拂フ可キ二箇ノ代價
中即チ其建物ノ建築費ト建物カ土地ニ附與スル増
價トノ間ニ選擇權ヲ有ス可シ

其建物タル土地ノ所有者ノ建築セサルモノナレハ
占有者ノ之レヲ建築シタルヤ明カナリ○吾人ハ其
建築者カ入額所得者賃借人長期賃借人又ハ地表有
權者ナリシ場合ヲ規定セス何トナレハ此等ノ場合
ニ於テハ既ニ遭遇セル特別ノ條例アルヲ以テナリ

(第七十二條、第七十三條、第一百五十八條、第一百八十二條
及ヒ第一百八十九條)

其占有者ハ善意又ハ惡意ナリシコアリ○其惡意ノ
占有者ヨリ善意ノ占有者ニ保護ヲ加へタルハ當然
ノコトス○是レ即チ法律上二箇ノ條例ヲ設ケタル
所以ナリ

其建築者ハ善意ノ占有者ニシテ即チ假令ヒ正當ノ
名義ヲ有セサルモ所有者ナリト思惟セシキ例へハ
舊所有者ノ相續人ニ非スシテ其相續人ナリト信セ
シキハ假令ヒ其者其建物及ヒ植物ヲ取除クニ於テ

ハ特別ノ利益ヲ有ス可シト雖也之レヲ取除シテ得サルヤ明カナリ然レトモ亦其建物等ノ毀壞ヲ爲ス
 丁ニ他ヨリ強イラル、丁テ得ス蓋シ是レ其者ニ三箇ノ損害ヲ加フ可キニ由ル其損害トハ即チ最初ノ
 作工ノ損失、毀壞及ヒ取去リノ費用及ヒ材料ノ減價ノ
 三者是ナリ○是ヲ以テ其者ノ權利ハ一箇ノ賠償トナルニ過キス

其建物ハ材料ノ代價ト作工ノ代價トニ適當スルモノト不然レトモ其建物カ土地ニ附與セル増價ハ其建物ノ爲メニ要セシ費用ニ相當スル丁蓋シ稀ナリ

ト謂フ可シ

土地ノ所有者ハ占有者ニ附與スルニ若クハ建築費若クハ土地ノ増價額ヲ以テスルノ撰擇權ヲ有ス可シ○斯ノ如キ論決ハ夫ノ不當若クハ原由ナキ利得ヨリ生シタル義務ノ事項ニ於テ既ニ遭遇セシ所ノ一般ノ原則ノ命令スルモノナリ○若シ所有者ニ於テ建築者ノ消費セシモノヲ之レニ拂フルハ則チ建築者ヲシテ其全部ノ損失ヲ免カレシムルナリ是ヲ以テ建築者ハ何等ノモノヲモ要求スル丁得ス即チ建築者ハ増價ノ超過額ヲ請求スルヲ得ス何トナ

レハ是レ自己ニ屬セサル土地ノ所有權ニ就テ超過額ヲ取立ルト謂フ可ケレハナリ
 若シ又所有者ヨリ増價ヲ建築者ニ拂フルハ則チ他人ノ損害ニ於テ自己ニ利得セサルノ義務ヲ履行スル者トス故ニ其費用ノ超過額ハ己レノ利益トナラサルヲ以テ其超過額ヲ拂フノ義務アリトハ認許スルヲ得ス而シテ此所有者ニハ過失アルコトナシ
 今ヤ爰ニハ建築者カ惡意ナルノ場合即チ建築者ハ土地ノ己レニ屬セサルヲ知リツ、其土地上ニ建築ヲ爲シタルノ場合ヲ仮想セン○即チ己上ノ場合ニ

於テ惡意ノ懲罰ハ該建築者ヲシテ強テ建築及ヒ植物ヲ破壊セシメ之レヲシテ前己ニ叙述シタル三個ノ損害ヲ受ケシムルニ在ルナリ尤モ此場合ニ於テ法律ハ正意建築者ヲ保護シ之レヲシテ己上ノ損害ヲ蒙ラシメサルニ強メサル可ラス且ツ其他ニ於テ惡意建築者ハ實際土地上ニ生シタル批難シ得可ラサル毀損アリタルカ爲メカ又ハ建築物若クハ植付物取毀チト取除キトノ事業間所有者ヲシテ受ケシメタル收益上ノ一時ノ剝奪アリタルカ爲メ所有者ニ賠償スルノ裁判言渡ヲ受クルコトアル可シ

然レ此已上ノ場合ニ於テ所有者ハ附添ノ原則ニ基
 キ建築物及ヒ植付物ノ保存ヲ求ムルヲ得可シ○即
 チ此場合ニ於テハ所有者ハ建築者ニ賠償セサル可
 ラス

爰ニ草案ノ佛蘭西法典ト同シカラサル所ハ即チ佛
 蘭西法典ニテハ已上ノ場合ニ於テ(土地ニ該建築及
 ヒ植物等ヨリ受得ヌ可キ多少ノ増價アルトテ問ハ
 ス)第五百五十五條第三項其所有者ヲシテ只建築ノ
 失費ヲ辨濟スルノ義務ヲ負擔セシムルノミニ在ル
 ナリ○然レ此論決タル屢々批判ヲ受ク可キモノ

トス何トナレハ此場合ニ於テ惡意建築者ハ正意建
 築者ヨリ優待セラル、如クナレハナリ○蓋シ前ノ
 場合ニ於テ恐ラクハ建築ヲ保存セント欲スルノ所
 有者ハ建築者ヲ以テ正意ナルモノト見做スノ權利
 ナ有ス可シトノ説ヲ主張スルヲ得可シト雖此之レ
 カ爲メ惡意建築者ハ該正意ヲ已レニ利用シ之ヲ以
 テ巨額ノ賠償ヲ得ルノ名義ト爲ステ得ルトノトニ
 ハアラサルナリ(附言アリ)然レ此所有者ニシテ已上
 ノ權利ヲ有スル爲メニハ其取戻請求ニ於テ建築者
 ノ占有中ニ収獲シタル果實ヲ要求セス且ツハ正意

占有者ノ利益タル可キ他期滿所得ヨリ一層短縮ナル期滿所得(即チ佛蘭西ニテハ十年)ヲ抗爭セサル様ニ注意ヲ加エサル可ラス

己上ノ場合ニ於テハ草案ハ所有者ニ利益ヲ與フ可キ意義ニ論題ヲ解説シ所有者ハ建築者ヲ正意占有者ト見做シテ之レニ賠償スルヲ得ルモノト爲セシト雖モ又之レカ爲メ所有者ハ果實ノ返還ト期滿所得ノ點ニ於テハ建築者ヲシテ其惡意ノ結果ヲ受ケシムルノ權利ヲ失スルコトナシトセリ
附言 己ニ此事ニ關シテ法律ノ格言タル(何人タリ

トモ自己ノ耻辱ト爲ル可キコトヲ證據ト爲シ以テ抗辨スルヲ得ス)云々ノコトヲ見タリキ即チ羅句語ニテ之ヲ (*nemo auditur turpi iudicium iam allegans*) ト云フ

第六百十四條 本條ニ規定シタル場合ニ於テ附添ハ漸積地ナル特殊ノ名稱ヲ取ルモノトス
而シテ漸積地トハ河川ノ兩岸ニ自然ニ堆積シタル加添地ニシテ流水カ其通過スル所ノ土地ヨリ分離シテ押流レタル泥土、砂礫及ヒ碎物ヨリ生シタルモノ即チ水流ニ彎曲及ヒ其他ノ障害アルカ爲メ下流ノ河岸ニ堆集シタル殘留地ヲ云フナリ。

蓋シ法律カ漸積地ヲ將テ其漸積地ノ生出シタル土地ヲ有スル沿岸所有者ニ屬スルハ實ニ至當ノコト云フ可シ何トナレハ水勢ニ押シ流サレ漸々ニ其土地ヲ失シタル不分明ニシテ且ツ數多ナル所有者ニ該漸積地ヲ割與スルハ實ニ爲シ得キノコトニアラサレハナリ○然ルニ法律カ偶然ニ顯出シタル或ル島嶼ヲ政府又ハ府縣ニ屬スルカ如ク(第八章)漸積地ヲモ之レカ所屬ニ歸セントスルハ尙以テ爲シ得可キノコトニハアラサル可シ何トナレハ是等ノ附從所有權ハ絶エス抗爭ノ本源タル可キモノナレハナリ

○且ツ又漸積地ヲ以テ沿岸所有者ノ所屬ニ歸スルノコトハ該所有者ノ爲メニハ水流ノ汎溢カ所有者ニ蒙ラシム可キ且ツ之ヲシテ屢蒙ラシムル所ノ反對ノ損害上ニ爲ス可キ不期ノ相殺トモ云フ可キモノナリ

法律ニテ沿岸所有者ニ漸積地ノ所屬ヲ歸スルト云フノコトハ只言語上ノ節畧ニ過キサルモノニシテ即チ爰ニテハ第八章ニ於ケル場合ニテ遭逢セントスルカ如キ直接ニ法律上ヨリ生シ來ル可キ獲得方法ノ場合ニ在ルモノト思惟ス可ラサルナリ○蓋シ漸

積ハ附添ノ特別ナル場合ニシテ即チ主タル物件ニ
 全然從屬シ且ツ附合シタル物件ノ併合ヲ云フモノ
 トス而シテ爰ニハ法律カ一個ノ權利ヲ創造スト云
 フヨリハ寧ロ法律ニテ自然ノ顯象ニ制裁ヲ附シタ
 ルモノト云フ可キナリ
 然レモ前ニ反シテ舟筏ヲ通ス可キ河川内ニ生出シ
 タル島嶼ヲ政府又ハ府縣ノ所屬ニ歸スルハ直接ニ
 法律上ヨリ來リタル獲得方法ト云フ可ク而シテ此
 ノ下タル外見ヨリハ左迄專恣ノモノニハ非ラサル
 ナリ○己上ノ場合ノ證明ハ第八章ニ於テ爲ス可キ

ナリ

而シテ漸積地カ異別ナル許多ノ沿岸所有地ノ前面
 ニ堆積スルコトハ屢々アル可キトニシテ是レ即チ漸
 積地ハ長徑ニ於テ或ル廣互ヲ有ス可キカ又ハ沿岸
 所有地ハ狹長ナル可キカヲ仮想セシム可キモノト
 ス○即チ己上ノ場合ニ於テハ各所有者ハ其所有地
 全積面ノ廣サニ準スルニアラスシテ河川ニ接近シ
 タル土地ノ長サニ準シテ漸積地所有ノ利益ヲ有ス
 可キモノトス

然ルニ本條ノ實行ハ其適用上ニ殆ト説明シ得可ラ

サルノ困難ヲ生ス可シ○而シテ右ニ關シテハ許多ノ方法ヲ提出セシト雖ヒ一トシテ全ク満足ナル結果ヲ與ヘシモノナキハ該方法ヲ提出シタル者自カラノ云フ所ニテ明カナリ故ニ一個ノ方法ヲシテ完全無缺ニシテ毫モ批判ヲ受ケサラシムル爲メニハ其方法ハ少クモ己下ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス、第一、水流ニ接シタル所有地ノ長サニ比例シテ漸積地ノ部分ヲ各所有者ニ附與スルヲ、第二、沿岸所有者ニ屬セサル漸積地ノ何等ノ部分ヲモ殘サ、ルヲ、第三、各所有者ニ其沿岸人ノ資格ヲ保存スルヲ

然レモ己上三個ノ條條ヲ具備スルノ場合ハ不幸ニモ實際其適用ニ於テハ最モ稀レニ遭逢スルノ場合ニシテ即チ水流カ殆ト直線ニ疏通スルノ場合是ナリ
 草案ハ右ノ困難ヲ斷決シ去ランカ爲メ一個ノ新制ヲ設ケタリ是レ未タ人ノ唱ヘタルモノアラサル所ナレモ其單簡ナル此事項ヲ論スル者ニ於テ既ニ發明セサル可カラサルモノ、如シ
 法律ハ我輩カ最モ稀少ナレモ亦タ最モ單簡ナルモノナリトテ掲出シタル場合ト較々實際ニハ多カル

ヘキモ一層錯雜セル場合トコ付キ區別ヲ立テ之ヲ
 二項ニ分記セリ(第二項及ヒ第三項)而シテ其行文ノ方
 法ノ若キハ幾何學上ノ二個ノ語ヲ用ヒタルニ拘ハ
 ラス依然法律上ノ体面ヲ失ハサルナリ
 第一ノ場合ニ於テハ漸積地ハ水流ニ並行セルモノ
 ナリ詳言スレハ其中流ニ並行セルカ又ハ殆ント(完
 全ナル並行ヲ見ント欲スルハ望ム可カラサル所ナ
 ルカ故ニ殆ントト云フ)之レニ並行セルモノナリ此
 際ニ於テ各河岸地所有者ノ部分ヲ定メント欲セハ
 漸積地ヲ横斷シテ諸所有地接比ノ點ヨリ引出シ河

流ニ直垂^{ベルバンチキニレール}セル線ヲ畫スルヲ以テ足レリトス而シテ右
 各線間ニ在ル所ノ漸積地ノ全部ハ即チ其河岸地所
 有者ニ所屬スヘキモノトス斯クノ如クスレハ則チ
 河岸地所有者ハ漸積地聚成前存在セシ沿岸ノ形狀
 ニ基キ其所有地沿岸ノ長短ニ準シ漸積地ヲ獲得ス
 ヘキナリ

附言 羅馬人モ亦タ同様ノ語ヲ以テ此事ヲ云ヘリ

(pro modo latitudines cujusque fundi quopropè ripam sit)

此論決タル實ニ公明正大ナリ何ントナレハ茲ニ附
 添ヲ聽許スルノ理由ヲ考察スルニ沿岸者タル原ト

河川ノ爲ノニ偶然損害ヲ被フルコアルヘキニ因リ
 附添ノ聽許ヲ以テ之カ代償トスヘシト云フニ在リ
 而メ此所謂損害トハ漸積地ノ反對ニシテ即チ河岸
 ノ毀損破壊ナリトス蓋シ河水ノ沿岸ニ運ヒ來レル
 所ノモノハ往々上流ノ沿岸又ハ對岸ヨリ掃取シ來
 リタル所ノモノナリ然ラハ則チ土地ノ境界河岸ニ
 沿フコ愈長ケレハ其水害ニ罹ルノ恐愈多シト云フ
 ヘキナリ

以下第二ノ場合ニ移ラン即チ漸積地ノ生シタル部
 分ニ水流ノ直線ヲ爲サス從テ其漸積地モ亦タ迂回

シ詳言スレハ水ノ中流又ハ沿岸ノ地ニ從ヒ鋭角又

ハ鈍角ヲ成スノ場合是ナリ○此場合ニ於テハ何レヲナシ

ノ方法モ採用シ難キモノナルコトハ我輩既ニ之ヲ言
 ヘリ

蓋シ此際ニハ沿岸地ノ舊境界ヨリ水流ニ直垂線ヲ
 畫スルモ分界線ヲ其從來ノ針路ニ循フテ延長スル
 モ其諸線ハ漸積地内ニ於テ奇妙ニ交叉シ其二三ノ
 角内ニ在ル漸積地ハ或ハ同時ニ二個ノ沿岸者ノ要
 求スル所トナリ或ハ諸線外ニ在テ遂ニ正當ノ望人
 ナキニ至ルヘキナリ加之ス此場合ニ於テハ舊沿岸

者中或ハ水流ニ達スルノ出路ヲ失フニ至ルコトアル
ヘキナリ是レ或ル方法ニ據レハ敢テ避クルニ及ハ
ストスレバ我輩ハ採用スヘカラサルノ結果ナリト
信スルナリ

草案ハ右ノ困難ヲ斷定スルニ一个ノ方法ヲ用ヒタ
リ蓋シ其方法タル新規ナルノ故ヲ以テ或ハ穩當ニ
非サルノ觀ヲ呈スルコトアルヘシト雖バ我輩ハ之ヲ
以テ獨リ其當ヲ得タルモノト信ス即チ沿岸者ヲシ
テ前項ノ法則ニ循ヒ分割スルコト能ハサル漸積地ノ
全部分ノ未分ノ共同所有者タラシムル是ナリ○加

之ス此際ニ於テハ不可分ノ通常ノ効ニ反シ衆人ノ
位置有害ナラスシテ却テ有益ナルモノナリ蓋シ漸
積地タル之ヲ數區ニ分割スルヨリ其區域ノ全部ヲ
依然存セシムルヲ以テ耕作又ハ樹木植付ノ爲メ之
ヲ益用スルコト容易ナルヘキモノトス
若シ其後ニ至リ共同所有者ニ不可分ノ適セサルコ
トアラハ即チ該所有者其全部ヲ不可分物公賣ニ付シ
相互間又ハ他ノ買主ニ賣却スヘシ○又或ハ相互間
ニ熟談ヲ以テ確定若クハ假分配ヲ行フヘシ都テ其
方向ハ其利益最良ノモノトナルヘシ

又共同所有權中各人ノ得有スヘキ部分ハ常ニ舊河
 岸ニ沿フタル所有地ノ長短ニ比例スヘキモノトス
 附言 未分ノ共同所有權、其利益並ニ不都合、各人ノ
 權利及ヒ之ヲ止息スルノ方法等ニ付テハ第三十
 八條乃至第四十一條並ニ其注解ヲ看ルヘシ
 本條ノ法文ニハ漸積地ニ沿岸地ニ洲ノ自然^つノ生出^お
エンサンシエブル
 ノ性質ヲ附セス然ルニ其他民事ノ諸法制ハ彼ノ漸
 積地ヲ稱シテ隱然タル増加 (incrementum latens) ト云ヘル
 羅馬法以來之ニ右ノ性質ヲ附與シタリ○蓋シ漸積
 地ハ概シテ隱然、自然ニ漸次 (Prolixitate) 聚成スルモノナ

ルヤ疑ナシト雖ヒ元山ノ雪消、突然タルノ際出水夥
 シカリシ後、水ノ再ヒ其河床へ復スルニ方リ其河岸
 へ巨大ノ漸積地ヲ遺スコト少ナカラズ
 然ルニ若シ法律ニテ漸積地ニ隱然、自然ノ増價ノ性
 質ノミヲ認知スルハ此速成ノ増加、此急遽ノ洲ハ
 果シテ何人ニ屬スヘキモノト爲スヘキカ○佛蘭西
 ニ於テハ法文ノ區域ヲ狹隘ナラシメタル制限アル
 カ故ニ該問題ニ付キ疑議ヲ生スルコト往々之レアリ
 然ルニ日本法案ニハ絶テ其現出スルコトナカルヘ
 シ

本條末項ノ條例ハ民法ヨリモ寧ロ行政法ニ屬スヘキモノトス

凡ソ水流ノ航シ得ヘク又ハ浮筏シ得ヘキハ(第二十五條及ヒ第二百四十三條註解ヲ看ヨ)沿岸者ハ其土地ト河岸トノ間ニ曳船アラシユ詳言スレハ水流ヲ溯ル船又ハ筏ヲ曳クニ必要ナル人又ハ馬ノ通行ヲ自由ナラシムルニ足ルヘキ空地ヲ餘スノ義務アリ○其通路ノ廣狹及ヒ其位置ヲ指定スルモノハ行政官ナリ○概スルニ是レ唯タ水流ノ一方ニノミ在ルヲ常トス○此通路ハ土地ノ都合ニ依リ時トシテハ此一方

ニ在リ又時トシテハ彼ノ一方ニ在リト雖モ行政官ニ於テ其通路ヲ此岸ヨリ彼岸ニ移サントスルハ必ス橋又ハ船ノ在ル場所ニ於テスルヲ要ス抑モ本條末項ノ趣旨ハ沿岸者ハ曳船ノ道ヲ漸積地ト代ヘ以テ舊路ノ地ヲ得有スルヲ能ハスト言フニ在リ蓋シ漸積地ハ概シテ卑ク且ツ堅牢ナラサルカ故ニ水量増加スレハ遂ニ之カ爲メニ覆ハレ又其變更ヨリ航行ニ障害ヲ生スルヲアルヘキナリ○又沿岸者ハ漸積地中建築又ハ植付其他如何ナル事業ニテモ其高サノ爲メ曳船ニ害ヲ及ホシ詳言スレハ船

ヲ曳クノ綱ヲ妨クルコトアルヘキ事業ヲ爲スコトヲ得
サルモノトス

第六百十五條 凡ソ沿岸所有者ハ前同一ノ區別ト條

件トニ從ヒ舟筏ヲ通ス可キモノト否トヲ問ハス總

テ河川内ニ生シタル乾涸地即チ其水ノ乾涸シタル

川床ノ部分ヲ利得ス可シ

然レモ水流ノ川床カ沿岸所有者ノ所屬タル時ハ右

乾涸地ノ附添權ハ舊川床廣サ外ニ擴張セサルモノ

トス

湖水及ヒ池沼ニ關シテハ右附添權ノ存セサルモノ

トス

海灣ニ生シタル濱地及ヒ乾涸地ニモ亦右附添權ノ

存セサルモノニテ是等ノ地ハ第二十六條ニ從ヒ政

府ニ屬ス可シ〔第五百五十七條及ヒ第五百五十八條〕

沿岸所有者ハ行政廳ニテ施行シタル鑿溝又ハ築堤

事業ニ因テ舟筏ヲ通ス可キ河川内ニ露出シタル沿

岸地ノ部分ヲ利得セス但シ該沿岸所有者ニ於テ行

政法ニテ規定シタル條件ニ從ヒ右沿岸地ヲ先買ス

ルノ權利ヲ有スルハ格別ナリトス

第六百十六條 若シ河水又ハ川水ノ激流カ沿岸地ヨ

リ植物ノ有無ニ關セス其土地ノ一部分ヲ分割シ之
 チ下流又ハ前面ノ沿岸地ニ押シ流シタルモ其押シ
 流サレ地ハ他所有地ノ一部分ナルト尙ホ認定シ得
 ルモノナル時ハ右土地ヲ失ヒタル所有者ハ其變災
 アリタル時ヨリ一ケ年内又ハ其一ケ年ヲ經過シタ
 ル後ハ其沿岸所有者ニ於テ未タ其押シ流サレ地ヲ
 占有セサリシキニ非ラサレハ其押シ流サレ地ノ取
 戻ヲ請求スルヲ得サル可シ然レモ該所有者ハ自己
 ノ費ニテ其押シ流サレ地ヲ取除カシメ且其取除ノ
 爲メ己上ノ沿岸所有者ノ受ケタル損害ヲ賠償セサ

ル可ラス

且ツ又該所有者ニ何時ニテモ己上ノ沿岸所有者ヨ
 リ押シ流サレ地ヲ取戻スカ又全ク之ヲ抛擲スルカ
 何レノ方ニナリトモ撰定ス可シトノ照會ヲ爲スチ
 得可シ

本條例ハ前同一ノ條件ヲ以テ土地ヨリ分離シアル
 ト否トヲ問ハス總テ激流ノ爲メ押シ流サレタル樹
 木、矮樹ニ適用シ得可キハ勿論尙ホ其他動產物ナリ
 ト雖モ洪水ニテ押シ流サレタル悉皆ノ物品ニモ適
 用スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テ其押シ流サレタ

ル方位ノ如何ハ問フニ及ハサルモノトス〔第六百五十九條〕

第六百十七條 舟筏共ニ通セサル水流中ニ現出スル小島ハ川床其物ト等シク沿岸所有者ニ屬ス可シ水流ノ兩方ニアル沿岸所有者ノ權利ヲ定ムルニハ右水流ノ軸即チ中心ニ沿流線ヲ畫シ而シテ各方ノ沿岸所有者ハ其方ニアル島又ハ島ノ一部分ヲ獲得ス可シ

若シ又同方ノ二個又ハ數個ノ所有地ノ前面ニ其小島存スルノ場合ニ於テハ第六百十四條第二項ヲ適

用ス可キモノトス〔第五百六十一條〕

舟筏ヲ通ス可キ河川内ニアル島及ヒ小島ノ所有權ハ本編第八章ニ於テ規定ス可シ

第六百十八條 沿岸所有者ニ屬スル二個ノ土地ノ境界線ト爲ル舟筏ヲ通ス可カラサル水流カ突然水脈ノ全體ヲ變換シタル時ハ其水ノ乾涸シタル川床ハ沿岸所有者ニ屬スルモノニシテ且ツ前條ニ規定シタル小島ニ於ケル如ク兩方ノ沿岸所有者間ニ於テ之ヲ分割ス可シ

若シ又舟筏ヲ通ス可キ水流ニ關スル時ハ其水ノ乾

涸シタル川床ノ所屬ハ第八章ニ於テ規定ス可シ

註解

第六百十五條 本條ハ一他ノ附添ノ場合ニ移ルモノ
 ナリ此場合タル復タ漸積地ノ名稱ヲ附スルコト能ハ
 サルモノニシテ乾涸地ノ稱ヲ與フ(附言アリ)此場合
 ニハ其流水ノ沿岸地ニ泥土ヲ運ヒ來リタルニ非ス
 シテ此岸ヨリ彼岸ニ退去シタルモノナリ是レ水流
 ニ甚シキ短角ヲ爲シ而シテ其土地堅牢ナラサル時ニ
 於テハ往々之レアル所ナリトス蓋シ此際ニハ水流
 ノ爲メニ内角ノ方ノ土地崩壞シ而シテ水ハ其流ヲ復
アングル、エーザユー

セントスルニ因リテ外角ノ方ヲ乾涸スルモノナリシ

アングル、エキステリユール

附言 濱邊ト乾涸地トノ差別及ヒ此二語ヲ採用シ

タルノ不可ナルコトハ物權ノ部(第二十六條註第三

十九號)ニ詳カナリ

流水ノ退去シタル此河岸ノ部分ハ漸積地ト同一ノ
 名義ニテ其存在シシ方ノ沿岸者ニ賦與スヘキヤ當
 然ナリ

然レ此際ニハ沿岸者中一人共所有地ノ増加ヲ得
 レハ他ニ亦タ其相當ノ減少ヲ被フルモノアリ○左
 レト茲ニハ後段(第八章)ニ至リ舟行シ得ヘク又ハ浮

筏シ得ヘキ水流全ク其河床ヲ捨テ、他ニ一ノ河岸
 ヲ開キタル場合ニ就キ掲クヘキ相殺ノ方法ヲ用ユ
 ルト能ハサルナリ蓋シ此相殺ノ方法タル佛蘭西法
 典中右ノ場合ニ於テ採用シタルニ(第五百六十三條)
 既ニ之ニ對シ非難ヲ加フル者頗フル多キ所ナレハ
 若シ法律カ流水ノ漸次ノ浸奪ニ因リ徐口ニ其土地
 ヲ失フタル隣人ニ對岸ニ於テ一帯ノ地ヲ與フルト
 アラハ非難愈々多カルヘク又非難セラル、モ敢テ
 無理ニ非サルヘク途ニ困難爭議ヲ醸生スルノ淵源
 トナルヘキナリ殊ニ其對岸地舊漸積地又ハ同時ニ

生シタル漸積地ト密着セルト若キニ於テハ一層
 甚シカルヘキナリ

本條ヲ適用スルカ爲メ法律ハ敢テ水流ノ性質及ヒ
 重要如何ヲ區別セス是其特言スル所ナリ○然レモ
 公領ノ部分ヲラスシテ河床カ沿岸者ノ所有ニ屬ス
 ル所ノ水流ニ關スルモ(物權ノ部第二百四十三條
 註第三百七十六號ヲ看ヨ)附添ノ權ハ此一事ノミニ
 テ法律カ明記スル所ノ制限ヲ受ケサルヲ得サルモ
 ノトス

偏ヘニ道理上ヨリ之ヲ論スレハ細流ノ河床中各沿

岸者ノ所有權ハ該水流ノ中心ニマテ達スルモノナ
 レハ自己ノ地先キニ於テ水ノ退去シタル沿岸者ハ
 河床ノ中途ニ至ルマテ乾涸地ヲ得有ス可キモノナ
 リト雖モ對岸者彼岸ニ存在セル狹隘ナル一帯ノ地
 チ取ラシカ爲メニ其處ハ舊河床中己レニ屬スル部
 分ニ當レリト稱シ水流ヲ渡リ來ルヲ許スヲ難キカ
 故ニ法律ハ河床ノ露出シ始メタル方ノ沿岸者ニ時
 宜ニ依リ舊河岸ノ全部ヲモ得ルヲ許シ而シテ更ラ
 ニ乾涸ヲ來スト雖モ舊河岸ニ於テ止マル可キモノ
 トセリ此時ニ至ルマテハ附添ヲ得タル所ノ者ハ尙

ホ水流ノ沿岸者タルヘシト雖モ新河床ノ所有權ハ
 毫モ之ヲ得ルヲナシ加之ス流水カ對岸地ノ方ヘ漸
 ヲ退去スルキハ沿岸者タルヲ止息セラレモノトス
 海濱ハ内海ト等シク國ノ公領ニ屬スルモノナリ(第
 二十五條)是ヲ以テ人民中海濱ニ密接シタル所有地
 チ有スル者モ直接ニ之ニ達スルニ非ス濱地及ヒ乾
 涸地ヲ得ルヲ能ハサルモノナリ

附言 茲ニ第二十六條法文及ヒ其註解中一句ヲ改
 正スルノ機會ヲ得タリ○第二十六條中「濱地及ヒ
 乾涸地」ト改メ又其註解(第三十九號)ニ於テ海濱ト

ハ海ノ漸積地ヲ謂フ旨ヲ説明スヘシ嘗テ言フ所
 ニ據レハ海濱ハ低潮ニ方リ露出セル土地ナリト
マレー、バックス
 セシカ其實此土地タル海濱ノ一部ヲ爲スモノナ
 リ○濱地トハ其眞義ヲ考フルニ海水ノ最早侵サ
 ヲル漸積地ヲ謂ヒ乾涸地トハ往昔海底タリシモ
 爾後露出セル土地ヲ謂フモノナリ○然レモ法律
 ニモ亦タ法學者モ共ニ此二語ヲ交モ使用スルト
 殆ント常ナリ人或ハ言フ東京ノ如キハ過半ハ往
 昔ノ乾涸地上ニ建築ヲ行フタルモノニシテ當時
 海水ハ舊水戸邸ノ武庫ニ至ルマテ里餘ノ多キニ

來リタルモノナリト

尙ホ茲ニ右土地ハ國ノ公領ニ屬スヘキモノナルカ

エター ドメス、ピエプリック

將タ私領ニ屬スヘキモノナルカノ問題アリ

ドメス、ピエプリック

皮相視スレハ此土地タル國ノ公領ト毫モ斷絶スル
 一ナク之ニ接續シ、之ト一体ヲ成スカ故ニ其中ニ納
 ル可キモノ、如シ○然レモ草案ハ之ヲ國ノ私領中
 ニ配置セリ是レ佛蘭西法典ニ於テモ反對ノ觀ヲ呈
 スル第五百三十八條ノ條例ニ拘ハラヌ採取シタル
 決定ナリ
 蓋シ斯クノ如ク海水ノ退去セル所ノ土地ハ海濱ト

看做スニハ餘リ廣大ニ過クルコアルヘシ然ルモハ
 則チ政府ヨリ人民ニ其拂下ヲ爲シ以テ之ヲ益用セ
 シムルヲ得ルハ有益ノコナリ○且ツ政府ハ該拂下
 地ヲ新濱地ヨリ多少ノ距離内ニ制限シ此距離ヲシ
 テ恰モ舊濱地ノ公領タリシ如ク公領ナラシムルヲ
 得ヘキモノトス
 先ツ之ヲ以テ漸積地ニ關スル論題ノ部類中ニ挿入
 シテ論スルヲ得サルハ又疑ヒナカル可キナリ何ト
 ナレハ湖水及ヒ池沼ノ水ハ絶テ流動スルコナキカ
 故ニ泥土及ヒ砂礫ヲ押シ流スコアル可ラサルハ勿

論且ツハ山上ヨリ落トシ來リタル急流ニテ土地ノ
 片塊ヲ押シ流スコ儘之レアレバトテ己上ノ押シ流
 サレ地ハ決シテ岸傍ニ留滯ス可キモノニアラサレ
 ハナリ
 然レモ湖及ヒ池沼ノ水積減少シタルカ故其沿岸地
 ノ一部分ヲ露出スルコアル可シ即チ此場合ニ於テ
 ハ乾涸地アル可キナリ
 然ルニ法律ハ沿岸所有者ニシテ水ニ所有權ヲ有セ
 サル時ニハ該乾涸地ヲ之レニ許與スルコナシ○蓋
 シ湖又ハ池沼カ沿岸所有者ニ屬セサル時ハ右湖又

ハ池沼ハ他所有者ノ私有ニ係ルモノナルカ又ハ公有ニ係ルモノナル可キナリ故ニ已上二個ノ場合ニ於テハ確定シタル制限アルモノニシテ即チ大概チ此制限ハ水面ノ最高點ヲ以テ定メタルモノナリ而シテ若シ水面カ漸々不斷ニ低下シタル時ハ沿岸所有者ハ池沼ノ周圍ナル其沿岸地ニ使用權ヲ享受シ得可キナリ○又前ニ反シテ湖及ヒ池沼ハ沿岸所有者ノ所屬ニ歸スルモノナル時ハ即チ該沿岸所有者ハ附添ニテ右乾涸地ヲ得ルニアラスシテ其從來所有者タルノ名義ニテ之ヲ得ルモノナリ故ニ該沿岸

所有者ハ只水ノ乾涸シタル爲メニ露出シタル土地ノ使用ヲ享受スルニ止マリ更ラニ他ニ余分ニ得タル所ナカル可キナリ

蓋シ沿岸所有者ヲシテ自然ニ水面ヨリ露出シタルニアラスシテ行政廳ニテ施行シタル土工ノ爲メ露出シタル沿岸地ノ部分ヲ利得セシムルハ實ニ爲シ難キノトト云フ可シ○即チ行政廳ニテ航路ヲ改良スルカ爲メ河川ヲ開鑿スルト即チ掘割ヲ爲ストハ屢之レアル可キナリ○然ルニ已上ノ土工ニハ常ニ巨額ノ失費ヲ要スルモノナルカ故ニ行政廳ハ水流

ノ川床上ニ生出シタル此土地ニ有スル所有權ト其
 賣却トノ利益ヲ以テ已上ノ失費ヲ償フノ道ヲ求ム
 ルハ實ニ當然ノコト云フ可キナリ○然レモ法律ハ
 沿岸所有者カ其所有地ト河川トノ中間ニ他ノ所有
 者アルニ依リテ水流ニ接近スルノ便利ヲ失セサル
 爲メ該沿岸所有者ニ總テ他所有者ニ先ダチ右沿岸
 地先買[○]即チ買得ノ特權ヲ許與シタリ○即チ右ノ先
 買權ハ行政法ニテ之ヲ規定シ即此權利ノ適用ハ尙
 他ノ場合ニモ之レアリ殊ニ道路廢止ノ場合ニ此先
 買權ノ適用アル可キナリ

第六百十六條 本條ニ豫定シタル場合ハ通常「avulsion」

(羅句語)ト稱スルモノニシテ「avulsion」ハ「激シキ分離」又

セムラシヨシヒラント

ハ「分割」ノ所爲ナル意義アル羅句語ヨリ由來スルモ
 ノトス○斯ル分離ヲ生スルコト蓋シ希有ナルニ非ス
 殊トニ山嶽多キ邦國ニ於テハ既ニ揭ケタルカ如ク
 雪解ニ因リ往々河川ノ水嵩激シク且著シク増加ス
 ルコトアリ

羅馬人以來何レノ外國法典ト雖モ一箇ノ沿岸ノ土
 地ヨリ共同一ノ沿岸ノ地若クハ前面ノ沿岸地ニ或
 ハ移轉シ或ハ接續シタル土塊ニ關スル設例ヲ規定

セリ○斯ノ如キ事實アリト雖凡之レカ爲メ直チニ
 其ノ土地ヨリ分離シタル一部分ヲ其所有者ヨリ取
 上ルコトヲ得ス而シテ其所有者ハ此部分ヲ取戻ス
 ニ認許セラル、ヲ要スルヤ明カナリ
 然レトモ此權利ハ二三ノ條件ニ服従シ且其期限モ
 充分短カク制限セラル、ヲ必要トス
 先ツ其押シ流サレタル土地ノ部分ハ「認知ス可キ」モ
 ノニシテ且其部分ハ同一物タルコトヲ證明セラル、
 ヲ要ス故ニ所有者ハ自己ノ失フタル部分ニ代用ス
 可キ一部分ノ地ヲ取戻スコトヲ認許セス而シテ其代

用ス可キ一部分地ハ他ノ沿岸地ノ部分ニ合集混淆
 シタルコトヲ證明スルト雖凡其取戻ヲ許サ、ルナリ」
 我草案ハ佛蘭西法典ノ如クニ其押流サレタル土地
 ノ「著大」ナルヲ希望セス何トナレハ國語其明瞭ヲ虧
 缺スレハナリ他又右請求ノ濫用ト其詐欺ニ出ツル
 ヤヲ恐ル、コトナシ何トナレハ若シ其請求者濫リニ
 非常ノ小部分ヲ請求セント欲スルモ訴訟ノ困難ト
 費用ノ多額ヲ要スルヲ以テ乃チ其請求ヲ止ム可ケ
 レハナリ

羅馬ニ於テ所有權取戻ハ豫定ノ期限ヲ以テ之ヲ制

限セス唯土塊ト共ニ移轉シタル樹木其土塊ノ止マリシ土地内ニ其木根ヲ生スルニ至ルマテハ所有權取戻ヲ爲ストヲ得タリキ○蓋シ此證明ノ實際ノ困難ハ既ニ夫ノ他人ノ樹木ヲ不當ニ植附タル所有者ノ事項ニ於テ掲載セル所ナリ○他又樹木ヲ植附サル土地ノ一部分カ其土地ヲ離レテ他ノ土地ニ移轉シタルモハ毫モ法律ノ論決アラサリシナリ○佛蘭西法典ハ所有權取戻ノ爲メニ一ケ年ノ期限ヲ定メ而シテ我草案ハ佛蘭西法典ニ定ムル所ヨリ一層長ク又一層短カク其期限ヲ規定スルニ付キ毫モ其

理由アルヲ見ス

又草案ハ沿岸ノ所有者カ土地ノ一部ノ占有ヲ爲スマテハ一年以上ニ渉ルモ其時マテハ所有權取戻ノ期限ヲ擴張スルヲ設定セリ○此時ニ至ルマテハ沿岸ノ所有者ハ所有權取戻ヲ拒ムノ理由ヲ有セス○他又日本草案ハ佛蘭西法典ニ掲ケサル二三ノ點ヲ規定セリ

故ニ所有權取戻ヲ爲ス者ハ土地ノ部分ヲ取除カシメサル可カラス即チ其者ハ土塊ノ止マリタル場所ニ於テ之ヲ所持ストノ意思ヲ有スルヲ得スト云フ

ニ外ナシ蓋シ若シ其土塊ヲ取除カサルニ於テハ或
 ハ層合[○]或ハ接續[○]ヲ生ス可シ其層合ヲ生スルハ沿
 岸ノ土地ヲモ併セテ先領スルニ至ル可ク若シ又接
 續ノミヲ生スルニ於テハ其者ノ先領ハ土地ノ所有
 者ニ沿岸ノ所有者タル身分ヲ剝奪スルニ至ルベケ
 レハナリ○此取戻ヲ爲ス者ハ土塊取除キノ爲メニ
 加ヘタル損害ヲモ賠償セサルヲ得ス何トナレハ其
 損害ハ自己ノ所爲ニ出テタルモノナレハナリ
 然ルニ法律ハ取戻人ヲシテ他ノ植物ヲ毀損シ得可
 キ土地ノ層合アリタルノミノ事ヨリ生シタル損害

ヲ賠償スルノ義務ヲ負擔セシメス何トナレハ己上
 ノ場合ニ於テハ抗拒ス可ラサル變災アルモノニシ
 テ即チ性質上取戻人ノ責任ニ歸スルヲ得サル事實
 アリ而シテ右層合地ノ取戻ヲ請求スルノ事實アル
 ヨリシテ其負擔スヘキモノニアラサル破損ヲ修復
 スルノ義務ヲ負擔セシムルトハ尙以テ能ハサルコ
 ナル可シ故ニ若シ其土地ノ境界ニ植付ケタル樹木
 カ颶風ノ爲メニ吹キ倒サレ墻壁又ハ家屋ノ一部分
 チ推シ崩シタル時ト雖モ右樹木ノ所有者ハ只其樹
 木ヲ改植スルノミニ止マリ之レカ爲メ生シタル破

損ヲ賠償スルニ及ハサルナリ
 蓋シ沿岸所有者ハ押シ流サレ地ノ所有者ヲシテ強
 非テ之レカ取戻ヲ請求セシムルヲ得ス何トナレハ
 右押シ流サレ地ノ取戻ヲ請求スルハ其所有者ニ屬
 スルノ權利ニシテ其義務ニアラサレハナリ○然レ
 ニ沿岸所有者モ亦一ノ年取戻スカ否ラサルカノ未
 定中ニ彷徨スルノ義務ヲ負擔シ之レカ爲メ自由ニ
 其土地ヲ耕作スルヲ妨遏セラル可ラサルナリ故ニ
 法律ハ沿岸所有者カ押シ流サレ地ノ所有者ニ對シ
 其權利ヲ使用シ之ヲ取り戻サントスルカ或ハ全ク

其權利ヲ拋棄スルカヲ明言ス可シトノ照會ヲ爲ス
 コヲ允許セリ而シテ若シ右所有者ニシテ押シ流サ
 レ地ヲ取戻サントスル時ハ時日ヲ移サス其取除キ
 ニ取り係ラサル可ラス又前ニ反スルノ場合ニ於テ
 ハ右所有者ハ全ク其權利ヲ失ヒタルモノト宣告セ
 ラル可シ(附言アリ)

草案ハ終リニ臨ミ本條例ハ管ニ部分地ノミニ適用
 シ得可キモノニアラスシテ尙ホ(激流ニテ取り除カ
 レ他人ノ所有地ニ押シ流サレタル)各種ノ動産物ニ
 モ適用シ得可キモノナリト宣言セリ○蓋シ如是決

スルニ前同一ノ理由アリテ存スルヲ以テナリ○蓋シ是等ノ物件カ動産物ナリトノ事情ハ(瞬間ノ期滿所得ヲモ)又簡畧ノ期滿所得ヲモ適用シ得可キモノトノ想像ヲ起サシムルニ足ラサル可シ何トナレハ己上ノ部分地ノ占有者ハ該期滿所得ニ付キテハ必用ノ基礎ナル可キ正當ノ原由ヲ有セサルヲ以テナリ(第百九十四條參觀)

附言 第七十三條及ヒ第百八十九條ニテ己ニ撰定

ニ關シテ照會ヲ爲ス可キ此權利ニ似タルノ例ヲ示シタリキ

第六百十七條 今ヤ法律ハ不動産ニ關シタル附添ノ

最終ノ場合ニ過ク可シ而シテ此場合モ亦水流ヨリ

影響シテ生ス可キモノナリ

大流中ニ生スル島嶼ハ爰ニ論ス可キモノニアラス

○爰ニ論セントスル所ノモノ只舟筏ヲ通ス可ラサル

ル細流中ニ生シタル小島ノヲ即チ是ナリ○蓋シ大

流中ニ生スル島嶼ハ政府府縣又ハ郡區ニ屬スルモ

ノニシテ法律上ヨリ之レニ獲得セラル可キモノト

ス是レ即チ第八章ニ於テ之ヲ説カントスル所以ナ

リ又前ニ反シテ舟筏ヲ通ス可ラサル細流中ニ生ス

ル小島ハ其沿岸所有者ノ所屬ニ歸ス可キナリ
 己ニ佛蘭西法典ニテ見タル己上ノ區別ハ草案ニ於
 テ之ヲ解説スル敢テ難キニアラサルナリ
 蓋シ兩法典ニ於テ舟筏ヲ通ス可キ水流ノ所有權ハ
 政府ノ(草案ニテハ府縣及ヒ郡區ヲ加フ可シ)公領ニ
 屬スルカ故ニ其川床ノ層堆シテ成リタルモノニ外
 ナラサル島地ノ公領ニ屬スルハ實ニ當然ノトト云
 フ可キナリ○然レモ島ハ水流自ラト異ナリ自然上
 使用ノ便ニ供スルト僅少ニシテ寧ロ却テ交通ノ便
 利ヲ害ス可キモノナルカ故ニ只政府ノ私領タルニ

止マル可キモノナリトス

然レモ細流ニ關スルノ場合ニハ佛蘭西ニ於テ右水
 流ハ何人ノ所屬ニ歸ス可キヤノ點ニ付テハ諸說紛
 々又歸着スル所ナキナリ○己上ノ難題ハ己ニ序ヲ
 以テ之ヲ示シタルカ如ク(第一冊四百五十二葉ヨリ
 四百五十四葉ニ至ル迄參觀)右論題ニ付テハ三種ノ
 說アリテ存シ第一說ハ己上ノ水流ハ政府ニ其所有
 權アルトテ認許シ其第二說ハ郡區ニ其所有權アル
 トテ認許シ其第三說ハ沿岸所有者ニ其所有權アル
 トテ認許スルモノトス即チ草案ニテハ其第三說ヲ

採用シタルナリ

然レモ右論題ハ流水使用ニ關シタル地役ヲ説キタルノ序ヲ以テ只其註解中ニ於テ己上ノ論題ヲ掲ケテ之ヲ論決シタルニ過キサレハ明カニ其正條ヲ掲ケサル可ラス是レ即チ爰ニ附從シテ之ヲ置キタル所以ナリ○沿岸所有者ハ川床自ラノ所有權ヲ有スルノ故ヲ以テ其川床中ニ生シタル小島ノ所有權ヲモ有ス可ク而シテ其之ヲ有スルハ只此時ニ至ル迄水中ニ隱没シタルノ所有地ニ農業上ノ使用ヲ得ルニ止マリ新タニ一個ノ所有地ヲ得タルモノニハア

ラサルナリ○然レモ爰ニハ附添ニ依リテ新獲得アリトノ事ヲ信據スルニ毫モ顧慮ス可ラス何トナレハ水流中ニ小島ノ生出スルハ時々海灣内又ハ陸地上ニ生スルカ如キ土地ノ内部ヨリ突出シタルモノヨリ生シタルモノニアラスシテ即チ小島ハ漸積地ノ沿岸ニアラスシテ其中心ニアルモノナル可ケレハナリ

沿岸所有者ニ小島ノ所屬ヲ歸スルヲニ付キテ或ハ對岸ノ沿岸所有者間カ或ハ同岸ノ沿岸所有者ニ異論ノ生スルコアル可シ○蓋シ此場合ニ於テ本條第

二項第三項ニ示定シタル方法ニ從ヒ各沿岸所有者ノ權利ヲ定ムルハ容易ノトナル可シ即チ水流ノ中心ヲ經過シタル並行線ヲ以テ流ニ沿フテ水流ヲ中分シ而シテ此並行線上ニ各沿岸所有地ノ極端ヨリ出テ、水流ヲ接續スル處迄達シタル直線ヲ畫シ而シテ各沿岸所有者ハ其前面ノ方形内ニ存スル小島又ハ小島ノ部分ヲ獲得スヘキモノトス

本條ノ末項ニ於テ大流中ニアル島地所屬ノトハ第八章ニ送レリ即チ右所屬ハ政府、府縣又ハ郡區ニ歸ス可キモノニシテ而シテ其獲得ハ法律上ヨリ生シ

來ルモノニシテ附添ヨリ生シ來ルモノニアラサルヲ以テナリ

第六百十八條 本條ニ規定セル場合ハ之ヲ島嶼ノ現

出ニ比スレハ較々稀ナルヘシト雖凡テ諸國ノ民法中少シク整全ナルモノハ皆之ヲ規定セリ加之ス其場合タル未タ必スシモ實際之レ無キニ非ラス又嘗テ述ヘタルカ如ク山嶽多キ邦國ニ於テハ暴風、雪解ケノ爲メ屢々土地ニ變動ナルナルバシヨシテ來スヲ以テ殊更其實例ヲ見ルモノナリ

本條ニモ舟行若クハ浮筏シ得ヘキ水流ト否ラサル

モノトニ付キ差異ヲ設ク而シテ右二者ヲ畧言スルカ
 爲メ我輩ハ以下之ヲ大流及ヒ細流ト稱スヘシ
 抑モ細流ノ河床ノ所有權ハ沿岸者ニ屬スルヲ以テ
 該河床ノ突然乾涸シタルハ各沿岸者之ヲ占有シ
 以テ農業其他適宜ノ使用ニ供スルヲ得ヘキヤ當然
 ナリ

勿論舊河床兩側ノ沿岸者間ニ其分派ヲ爲スハ島嶼
 ハ分派ノ爲メ既ニ前條ニ指示シタリシ沿流線及ヒ
 直垂線ヲ用テス可シ

大川ノ河床ニシテ右ノ如ク乾涸シタルモノニ關シ

テハ沿岸者其所有權ヲ獲得セスト雖モ他ニ至ク之
 ト異ナル法律上ノ配當法アリ即チ新河床ノ爲メニ
 土地ヲ奪ハレタル所有者ニ乾涸シタル河床ヲ附與
 スルコト是ナリ(第八章ヲ看ルヘシ)

第六百十九條 若シ第六百十六條ニ云ヘル如ク一個
 ノ土地ヨリ分離シタル部分地方島又ハ小島ノ形狀
 ニテ水流中ニ存留スルキハ右部分地ノ所有者ハ其
 現存スル場所ニ於テ之ヲ占領スルヲ得可シ然レモ
 公領ノ部分ヲ爲ス水流ニ關スル場合ニ於テハ政府
 府縣又ハ郡區ハ附添島地所有權ノ事項ニ關シテ第

八章ニ於テ爲ス可キ區別ニ從ヒ豫メ定メタル正當ノ賠償ヲ以テ右島又ハ小島ノ讓渡ヲ要求スルヲ得可シ〔以太利亞法典第四百五十九條〕

第六百二十條 若シ舟筏ヲ通ス可キ水流ニ他ノ新流ヲ生シ而シテ之レカ爲メ島ノ形狀ニテ沿岸地ノ全部又ハ一部ヲ包括スルニ至ルキハ右土地ノ所有者ハ其所有權ヲ保有ス可シ但シ此場合ニ於テモ前條ニ設定シタル如キ所有權引キ上ケノ權利ハ格別ナリトス〔佛蘭西法典第五百六十二條、以太利亞法典第四百六十條〕

第六百二十一條 私有池沼ノ魚類及ヒ鳩舎ノ鳩ニシテ別段計策ヲ以テ他ヘ之レヲ誘引シタルモノニモアラス又之レヲ保持シタルモノニアラスシテ他ノ池沼又ハ鳩舎ニ轉移シタルモノハ其遷居シタル土地ノ所有者ニ屬スルモノトス但シ前所有者ヨリ其魚類及ヒ鳩ハ自己ノ所有物タルヲ證明シ一週日内ニ之レヲ請求シタル時ハ格別ナリトス〔第五百六十四條〕

群ヲ爲シテ隣地ニ飛轉シタル蜜蜂ニ關シテハ其所
有者ハ一週間内之レヲ追躡シ且ツ之ヲ請求スルヲ

得可シ然レモ若シ隣人カ之ヲ取養シ且ツ保持シタル時ハ右請求ノ權利ハ三日後ニ止息スルモノトス〔以太利亞法典第七百十三條〕

若シ又性質上野生ナルモ飼ヒ馴ラシタル禽獸ニ關スル時ハ其所有者ハ善意ニテ之ヲ取養セシ者ニ對シ一ヶ月間取戻權ヲ實行シ得可キモノトス

第六百二十一條 二 第六百六條ニ從ヒ發見者ノ所屬ト爲ス可ラサル埋物ノ部分ハ附添權ニ依リテ其埋物ノ埋ツモリ又ハ隠レタル所ノ動產物若クハ不動產物ノ所有者ニ屬ス可シ

若シ其物件ノ所有者自ラ偶然ノ發見ヲ爲シタル時ハ其埋物ノ全部ハ右所有者ニ屬ス可クシテ其一半ハ先領ニ依リテ之レニ屬シ他ノ一半ハ附添ニ依リテ之ニ屬スルモノトス

若シ又埋物發見ハ其埋物ノ存セシ物件ノ所有者自カラ又ハ其命令ニ因リテ之レカ爲メ爲シタル搜索ノ結果タリシカ若シクハ又其命令ナクシテ第三ノ人ノ爲シタル搜索ノ結果タリシキハ其埋物ノ全部ハ附添ヲ以テ右所有者ニ屬ス可シ

註解

第六百十九條 草案ハ此處ニ伊太利法典(第四百五十

九條)ヨリ豫防ノ條例ヲ假用スルモノナリ

土地ノ一部ノ^{アホヒヤン}[avulsion] 激烈ナル分ニ付キ獨リ第六百

十六條アルニ過キサルモハ分離セザレタル土塊他

ノ沿岸ノ所有地ニ層合シ又ハ接續セスシテ水流中

ニ止マリ島嶼ヲ成スモニ於テモ亦タ所有者之ヲ年

内ニ取除カサルヲ得ス否ラサレハ遂ニ其所有權ヲ

失フニ至ルヘシ然ルニ此場合ニ於テハ前ノ場合ト

異ナリ之ニ命シテ其土地ヲ取除キ又ハ之ヲ拋棄セ

シムヘキノ理由アラス沿岸者ハ此土地ノ移轉此水

流ノ變更ノ爲メ敢テ何等ノ損害ヲモ受クルモノニ

非ラス左レハ移轉セル土地ノ所有者ハ其止マリタ

ル處ニ於テ之ヲ占有シ而シテ之ヲ占有スルノ時間ニ

就テハ敢テ何等ノ制限ヲモ加ヘサルヲ當然トス

本條ノ場合ニ於テハ大川モ細流モ共ニ其規則ヲ同

フスルヲ原則トス是レ其理由ノ同シキカ故ナリ蓋

シ公領ノ部分ヲ爲サ、ル大川ニ關スルモ國又ハ州

ニ於テ他ノ島ト異ナリ數多ノ土地ヨリ分離シ來リ

漸積ノ爲メ徐ロニ成リタルニ非サル島ヲ獲得スル

ハ至當ノコトニ非ラサルナリ而ルニ本條ノ場合ニハ

唯一ノ所有者ノ土地ヨリ一个ノ島ヲ成リタルモノ
ニシテ而シテ此土地ノ認知シ得ヘキモノナレハ其所
有權ハ之カ爲メ喪失スルコトアル可カラズ
然レモ草案ハ伊太利法典ノ條例ヲ全ク假用シテ國
又ハ州ニ所有者ヲ強テ其島ノ讓渡ヲ爲サシメ以テ
大川中ノ諸島ノ所有權ヲ一手ニ掌握スルコトヲ許シ
タリ○是レ即チ正當且ツ豫定ノ賠償ヲ以テスル強
令ノ引キ上ケナリ(第三十二條對照)○唯タ其通常ノ場合
ト異ナル所以ハ公益ノ趣ヲ證明スルニハ及ハス又
宣告スルニ及ハス國州又ハ邑ニ於テ法律力カ之カ爲

メ認定シタル權利ヲ行ハント欲スレハ即チ之ヲ行
フヲ得ルコト是ナリ

第六百二十條 本條ニ規定セル場合ハ佛蘭西及ヒ伊
太利法典ニ模倣シタル事實ノ景狀ニ付テ觀察セハ
之ヲ理解スルコト容易ナリトス
蓋シ前狀ノ場合ニ於テモ猶且ツ沿岸者ハ所有地内
ノ土塊流失シ下流ニ至リ止マリテ一島ヲ成シタル
ト之ニ其所有權ヲ得セシムル以上ハ流轉ナク唯々
水流ノ變動ニ因リ島トナリタル土地ノ所有權ハ之
ヲ保存セシムヘキハ明カナリ

法律カ茲ニ規定スル所ハ只タ舟行又ハ浮筏シ得ヘキ水流ノ場合ノミナリ是レ其河床ノ原ト公領ニ屬シ其中ニ生出シタル諸島ノ概シテ沿岸者ノ所有タラサルカ故ニ疑議ヲ生スルコトアルヘキモノハ獨リ此ノ場合ノミナルニ由ル○實ニ沿岸者ニ所有權ノ屬スル水流ニ付キ同一ノ事實アルモ我輩カ茲ニ論スル所ノ場合ハ毫モ疑議ヲ起スコトナカルヘキナリ私領地内ニ生シタル小區域ノ新地ハ依然其河床ト等シク水害ヲ被リタル所有者ニ屬スヘク島形ヲ爲シ露出シタル地面ハ偏ヘキ之ニ屬スル河床ト接續

スルヲ以テ此人ノ外他ニ所有者アラサルヘキナリ本條ニ規定セル場合ヲ解説シ了ルニ方リ法案本條ノ末文ハ伊太利法典ニ模倣セル條例ニシテ國又ハ州ニ許スニ其必要ト認メタルハ強令ノ讓渡ヲ要求スルヲ以テスルコトヲ注意セシ其理由ハ前條ニ於ケルト同一ナリ

第六百二十一條 私領ノ池沼ノ魚類ハ河海ノ魚類ト異ニシテ無主物ニ非ラス故ニ其池沼ノ所有者ノ承諾ナケレハ之ヲ漁取スルコト能ハス又故ヲニ築造シタル鳩舎ニシテ鳩ノ爲メ特トニ修

繕セルモノ、中ニ在ル鳩鴿ハ最早野禽ニ非ラス鳩舎ヲ出テ、隣地ニ飛去スルモ隣人ニ於テ其性質ヲ認知スルキハ猶ホ之ヲ獵獲スルヲ能ハス

附言 鳩舎ニ棲息セサル鳩ハ之ヲ [Punieres] ト稱ス其樹枝ニ棲息スルカ故ナリ此種ノ鳩ハ野禽ニシテ獵獲スルヲ得ヘシ

然レ凡魚鳩共ニ多少自由ヲ有ツヲ以テ時トシテハ隣地ノ池沼又ハ鳩舎中ニ逸スルヲナシトセス○蓋シ魚類ニ就テハ隣地ノ池沼元ト概テ其池沼ト分離スルノ故ニ斯クノ如キヲハ稀ナルヘシト雖モ亦ク

或ハ境界ノ破裂又ハ水ノ溢出ナシトセサルナリ右鳥魚ノ飛去、游出アリタルキハ其來リタル土地ノ所有者ニ於テ其所有權ヲ獲得スヘシト雖凡二个ノ條件ヲ具備セルヲ要ス即チ右土地ノ所有者竊取ハ勿論己レノ土地内ニ鳥魚ヲ集メンカ爲メ毫モ狡計、姦策ヲ用ヒタルヲナキチ第一ノ要件トス否ラサルキハ取戻及ヒ損害賠償ヲ被フルヲ免カレサルヘシ第二ノ條件ハ一週間内ニ取戻ノ訴ヲ起スヘキト是ナリ○其七日ハ鳥魚ノ隣地ヘ入りタル時ヨリ計算スヘク其飛去、游出ノ時ヨリ計算ス可ラストセリ是

レ鳩鴿ノ隣地へ止マル前數日間處々ヲ彷徨シタル
時ニ於テ利益アルモノナリ

若シ鳩鴿カ或ル所有地内ニ存スル鳩舎中若クハ其

安息所ニ適スヘキ一部ノ建築物中ニ其身ヲ安セス
フイユージュ

シテ唯其土地内ニ一週間以上止マリタル片モ尙ホ

其取戻ヲ爲スコヲ得何トナレハ比隣者(即チ右ノ土地ノ所有者

ヲ云)ハ未タ眞ニ鳩ノ占有ヲ爲サルヘケレハナリ

何レノ場合ニ於テモ其取戻ヲ爲ス者ハ必ス自己ノ

權利アル旨ヲ證明ス可キハ敢テ論ヲ俟タスシテ明

カナリ(而シテ法文ニハ此旨ヲ説明スルノ注意ヲ爲

セリ)其證明トハ即チ自己ノ取戻ヲ主張スル所ノ獸

類ニ相違ナキコトヲ云フ鳩鴿ニ就テハ自ラ隣家ノ鳩

鴿トハ其種類其羽色ニ差別アルヲ以テ之レヲ証明

スル稍ヤ困難ナラサルモ夫ノ魚類ニ付テハ其証明

一層困難ナルヘシ○若シ又鳩ノ栖替ノ際隣人ハ其

所有ノ鳩舎中若クハ其屋根裏等ニ鳩鴿ヲ有セサル

ニ於テハ右ノ取戻ハ更ニ容易ナル可シ

魚類取戻ニ關シテハ實際多少ノ困難ヲ生スヘク殊

トニ其魚類取戻ヲ爲ス者之レカ爲メ隣人ノ池沼ヲ

乾涸セシムルコトヲ得ルヤ否ヲ知ルノ事項ニ就テ更

ニ困難アリトス○此者ニ對シテハ概シテ其隣人ニ
 不満足ニシテ且之ニ損害ヲ蒙ラシム可キ所ノ權利
 ヲ拒絕セサルヘカラス○然レモ若シ其隣人ハ自己
 ノ池沼中ニ他人ノ魚類ヲ泳出セシムルカ爲メ詐欺
 ナ行ヒシ者ト認定セラレシキハ其取戻ヲ爲ス者ハ
 其欺計ニ罹リタル魚類搜索ト之ヲ取戻スニ便ナル
 トノタメ隣人ノ池沼ヲ容易ニ乾涸セシムルノ權利
 ヲ有ス可シ

佛蘭西及ヒ伊太利亞ノ法典ハ(前記ノ正條)一層單純
 ナル條例ヲ有ス然レトモ稍ヤ正當ヲ失シタルカ如

シ即チ其魚類及ヒ鳩鴿ノ所有權ハ禽獸カ隨意ニ移
 轉シタル土地ノ所有者ニ直[○]チ[○]ニ獲得セララル、チ以
 テ其取戻ノ爲メニハ毫モ期限ヲ附スルコトナシ
 吾人ハ斯ル條例ヲ設定セス何ントナレハ比隣者ノ
 一人ニシテ他ノ一人ニ到着スル偶事ニ付キ利益ヲ
 得ルハ是レ正當ノコトニ非サレハナリ蓋シ法律ノ見
 ル所ニ於テ此等ノ禽獸ハ野生ノモノニ非ス何トナ
 レハ詐欺若クハ欺計ヲ用ヒテ之ヲ誘引スルコト許
 容セサレハナリ尙又法律ハ勢力若クハ狡猾手段ヲ
 以テ之レヲ留置[○]ク[○]コトヲ禁セリ○故ニ若シ法律上比

隣者ノ新權利ヲシテ禽獸ノ意欲ノ一種即チ其撰ウツロシテイン
 テ土地ニ附着スル所ニ任セシムル以上ハ多少其時
 間ヲ待ツトナ當然トス○之レカ爲メ一週間ノ期限
 ヲ設定シ而シテ其期限タル充分短期ナリト雖トモ
 尙斯ノ如ク規定スルヲ要スルニ箇ノ理由アリ即チ
 其期限ハ禽獸ノ所有者ニ對シテハ其拋棄若クハ不
 問ノ一種ヲ指定シ且其比隣者ノ爲メニハ保護ヲ加
 フルニ足ル可キ一箇ノ占有ヲ設定スヘシ
 前記ノ佛蘭西及ヒ伊太利亞ノ法典ハ土兔ラズンド、カレンスニ付キ類
 似ノ條例ヲ有シタリ○草案ハ斯、ル獸類ノ一ヲ記

載セス何トナレハ先ツ第一日本ニ於テハ歐洲諸國
 ニ比シ土兔ノ僅少ナルニ因ル又第二ニ此等ノ獸類
 ハ眞ニ野生ノモノニシテ最初ノ先領者ニ屬スヘキ
 ニ因ルナリ○故ニ若シ土兔ニシテ甲ノ所有地ヨリ
 乙ノ所有地ニ移轉セル片ハ直チニ其乙ナル比隣者
 ニ屬ス可ク而シテ又假令ヒ其乙者詐欺ヲ以テ之ヲ
 誘引シタルニ於テモ亦然リ他又斯、ル詐欺ハ稀ナ
 リト謂フ可シ何トナレハ此等ノ獸類ハ畜ニ妨害ヲ
 爲スノミナラス其數夥多ナル國ニ於テハ耕作人ヲ
 シテ其失望ヲ來サシムルモノナレハナリ